

令和3年3月予算審査特別委員会

令和3年3月11日（木曜日）

◎ 出欠席委員氏名

東海林 信 弘 委員長 吉 田 芳 美 副委員長

出席議員（12名）

1番 丹野 貞子 議員	2番 東海林 信弘 議員	3番 齋藤 隆 議員
4番 木村 章一 議員	5番 吉田 芳美 議員	6番 榎 正義 議員
7番 石垣 光洋 議員	8番 細矢 誓子 議員	9番 阿部 恭平 議員
10番 松田 收作 議員	12番 佐藤 修二 議員	14番 岡田 桂司 議員

欠席議員（0名）

◎ 職務のため議場に出席した事務局職員の職氏名

真木 邦弘 事務局 長 齋藤 淳 議事 係 長
竹屋 和典 総括 主任

◎ 説明のため議場に出席した者の職氏名

森谷 俊雄 町 長	河内 耕治 副 町 長
板坂 憲助 教 育 長	真木 吉雄 監 査 委 員
後藤 浩 総務課長兼 新庁舎建設課長	宇野 勝 政策推進課長
矢作 勲 税務町民課長	堀米 清也 健康福祉課長
秋場 弘昭 環境防災課長	増川 仁 農林振興課長併 農業委員会事務局長
佐藤 晃一 商工観光課長	須藤 俊一 都市整備課長兼 新庁舎建設主幹
今部 憲治 上下水道課長	鈴木 淳子 会計管理者兼 会計課長
石山 勝巳 教育主幹兼指導主事	大泉 雅志 学校教育課長補佐 兼管理係長
齋藤 順子 学校教育課長補佐 兼学校給食センター所長	牧野 隆博 生涯学習課長

真 木 秀 章 総務課長補佐兼総務係長

松 田 浩 一 総務課長補佐

◎ 委員会日程

令和3年3月11日（木） 午前9時開議

委員会日程第2号

日程第1 付託案件の審査、採決

議第11号 令和3年度河北町一般会計予算について

延 会

◎ 本日の会議に付した事件

委員会日程第2号のとおり

◎ 開 議

午前9時

○東海林委員長 おはようございます。

本日の欠席通告委員はありません。

ただいまの出席委員数は12名であります。

定足数に達しておりますので、直ちに本日の会議を開きます。

本日は、平成23年3月11日に発生しました東日本大震災から10年を迎えます。そこで、予算審査特別委員会の途中になろうかと思いますが、午後2時46分から1分間黙禱をささげたいと思いますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

本日の委員会日程はお手元に配付のとおりであります。

○東海林委員長 日程第1、付託案件の審査、採決を行います。

議第11号令和3年度河北町一般会計予算についての質疑を続けます。

委員長から申し上げます。質疑の際は、最初にページ、款項目節を示して、質疑の内容を簡潔明瞭にお願いします。また、答弁する側も簡潔明瞭に答弁をお願いいたします。

令和3年度河北町一般会計予算の歳出の1款議会費から4款衛生費までの質疑を行います。

それでは「4番木村章一委員」

○木村委員 最初は、38ページ、2款1項1目、その中の自動車購入費です。

さきの委員からも質疑ありましたが、今後のカーボンニュートラルとか、そういった動きを先取りし、今回ハイブリッド車を購入というふうに聞きましたが、私は、EV車、電気自動車にすべきではないかというふうに思います。

既にリースでEV車が1台河北町にあるというふうに聞いておりますけれども、EV車を中心に導入していった場合、新庁舎の車庫にEV車用の電源も多数準備する必要が出てくると思うんです。

既に充電するものとして、PHV車はありますけれども、電源が必要な電源10倍ぐらいになりますので、それを多数の車に準備するとなると、先にそういった準備もしておかなきゃいけない、そういう観点でもEV車を導入して、そういった先のことを思いをめぐらすといえますか、そういった必要があるのではないかと。その点についてお聞きします。

次に、38ページ、2款1項1目防災士養成研修講座負担金であります。令和2年度も一応職員を3人ほど防災士を目指して研修を受けてほしいということでありましたが、それ

はどうもならなかったということのようでありませぬけれども、令和3年度も同じようなことを目指すのではないかと思うんですが、そういうことなのかどうか。

さらに、特に発災時の防災士の活動、役割などについて、どういう位置づけをしていくかについてお聞きしておきたい。

次に、40ページ、2款1項3目会計管理費であります。町税などの徴収、多様な収納について、検討を始めると以前に答弁ありましたが、どんな状況になっているのか、令和3年度はどうかをお聞きします。

40ページ、2款1項4目河北町個別施設計画支援業務委託料、この委託の目的はどんな内容かお聞きしたい。

この計画の概要を議会などへの説明をこれまで求めてきましたが、なかなか計画の完成とのタイミングで、説明いただけていませんが、いつ頃になるかお聞きしたい。

46ページ、2款1項8目視聴覚用品としてドローンを今回導入するという事です。私は、ドローンを早くから注目して、自分でも購入しましたが、どんどんと技術が進んでおいて、比較的安いものでもなかなかいい仕事、使い勝手のいいものが出てきております。

それで、そのドローンを導入するに当たって、使い方の研修ということですかね、メーカーが来て使い方を教えてくれるとか、何かそういうことなのか、使い方の勉強をチームをつくってやったらどうかと。

まずは、視聴覚用品としての導入でありませぬけれども、いずれそれ以外にもいろいろ使いたいと。じゃ、使いたいニーズのある部署の担当全員集めてやるとかというような形も含めて、ドローンの活用にはチームをつくったらどうかということについて伺います。

48ページ、2款1項11目庁舎建設基金、この中の庁舎建設基金積立金であります。今回

から1億円の積立て不要になったということのようでありませぬけれども、状況の説明を求めます。

庁舎建設に1億円を積立てしなくても十分に間に合うという見通しなのか、それとも全体の財源が厳しいので積立てを諦めざるを得ないみたいな、そういった状況なのか、どちらなのかお聞きしたい。

66ページ、3款2項1目新しく結婚新生活支援事業給付金が設けられましたが、内容、どんな内容なのか。何組を想定しているかということについてお聞きしたい。

こういった場合に、婚姻届を持ってきたときにこういったものを差し上げるとなれば、いつおいでになるか分からないということもありますので、こういった記念品とか給付金をお渡しするタイミングというのはどういふふうになるのかお聞きしておきたい。

66ページ、3款2項1目、これも新しく河北安心子育て応援事業給付金ですが、これも幾らずつ、何人分を考えているのか。お一人当たり出生児とか、それぞれ入学時とか説明受けていますが、どういう内容か説明を求めます。

68ページ、3款2項5目認定こども園整備事業費補助金について、今年度の内訳について、2つの施設なのか、3つの施設なのか、内訳について説明を求めます。以上お聞きをします。

○東海林委員長 「後藤総務課長兼新庁舎建設課長」

○後藤総務課長兼新庁舎建設課長 おはようございます。

それでは、2款1項1目一般管理費の公用車関係で、今後の動き等のご説明を申し上げます。

昨日も公用車関係については、ハイブリッド車を購入する予算であるというような説明を申し上げたところでありますけれども、カ

一ボンニュートラル、脱炭素社会的な観点から、これからの公用車の購入については、ハイブリッドもしくはEVの購入というふうなことになるかと思えます。

それで、現在の準備の状況でありますけれども、今年度の予算といたしましては、公用車について、ハイブリッド車を購入する予定というふうなことの予算であります。

そのほかの準備状況といたしましては、新庁舎建設に関しまして、車庫棟、エネルギー棟建設するわけですけれども、エネルギー棟の設備といたしまして、EV用の引込み等の設計は2台分組んでいるというふうなことになるかと思えます。

あとは、同じく2款1項1目の防災士関係の負担金でありますけれども、今年度におきましても山形県で開催いたします防災士取得の講座について、地区、町内会から推薦のあった方の受講というふうなものと、あとは、人数に余裕があったら、市町村の職員も認めるというようなことがありましたので、役場の職員もその講座に参加いたしまして、資格を取得するような予定にしておりましたけれども、残念ながら、講座自体が開催できなかったというふうなことで、今年度についてはかないませんでした。

来年度につきましては、同じような講座が開催されるというように聞いておりますので、職員については参加させていただきまして、取得したいというふうな考えで、今年度と同じというふうなことであります。

あとは、2款1項4目の個別施設計画の支援業務委託料でありますけれども、こちらにつきましては、令和元年度と2年度の2か年にわたりまして、河北町の個別施設計画のほうを業務委託において策定中でありまして、今月中に委託業者のほうからは納品になるというふうな予定でありますので、来月になる

かと思えますが、議員の皆様にも説明というふうなことになるかと思えます。

最近通知がございまして、総務省のほうで個別施設計画のほうの見直しを行っていただきたいと、総合管理計画を前に樹立いたしましたけれども、そちらのほうの見直しもというふうなことがありましたけれども、その内容については、詳細まだ分かっておりませんが、メンテナンスをしてくださいというような通知もありましたので、そういったものにも対応すべく、また、計画自体のメンテナンスも必要になるかと思えますので、そういったことを踏まえて、若干でございましてけれども、委託料のほう盛らせていただいたところあります。

あとは、2款1項11目の新庁舎建設費に係りましてですが、積立金につきましては、来年度以降の建設事業について、財源を勘案したところ、積立金のほうを積まなくても今のところの事業費の中で賄えるのではないかとというふうな見通しを立てましたので、財源の都合というふうなことではなくて、全体事業費を見越した中で、今年度は今のところ積まないというふうなことにしたものであります。

○東海林委員長 「鈴木会計管理者兼会計課長」

○鈴木会計管理者兼会計課長 40、41ページ、会計管理費に関してのコンビニ収納等新たな公金の収納方法についてのご質問についてお答えいたします。

収納率の向上にはコンビニ収納等は必ずしもつながらない、費用対効果の面から言ってもどちらかといえばこれまでは消極的でございました。

令和2年度、今年度の収納対策会議におきまして、町民の方の利便性の向上を図ること、あと、世の中の動向等考えて、コンビニ収納に限らず、クレジット払い等もあり

ますので、新たな公金の収納方法について、これから導入を考えなければならないということになりました。

それを受けまして、令和3年度については、同じく収納対策会議におきまして、他市町の情報収集も行いながら、担当課のほうと協議を行いまして、早期の新たな公金の収納方法の導入に向けて協議を行っていきたいと思っております。

○東海林委員長 「宇野政策推進課長」

○宇野政策推進課長 46、47ページ、2款1項8目視聴覚用品、ドローンの購入についてでございます。

庁舎内にも既にドローンの講習を受けた職員も数名おるといふふうに聞いております。したがいまして、今後まずは、広報用のドローンということでございますけれども、今後のことも考えまして、そういった研修について、職員の中でやれるのか、そういったところも踏まえまして、幅広く使えるような方向にはしていきたいというふうな考えは持っております。

○東海林委員長 「堀米健康福祉課長」

○堀米健康福祉課長 67ページの結婚新生活事業費補助金300万円でございますが、これにつきましては、今年度から新たに実施させていただくものでございまして、国の補助事業になっているものでございます。

内容としましては、結婚されまして河北町に住んでいただくということが条件になるわけでございますが、39歳以下、世帯所得が400万円未満、この世帯所得というのは、夫婦共の所得ということで、ちょっと400万円未満ということで、ハードルがちょっと高いところではございますが、こういった対象者を対象にしまして、住宅所得に係る経費とか、あるいは住宅賃貸に係る経費、引っ越しに係る経費、そういったものということでござい

ます。

今のところ、10件の30万円、1件30万円でございますので、1世帯当たり30万円でございますので、10件分を見ているところでございます。

このやり方につきましては、婚姻届を出されます窓口である税務町民課さんとちょっと今協議させていただいているところでございます。

そのほかに、私ども単独としまして、先ほど記念品ということがありましたけれども、結婚されて河北町に住まれる方に対しまして、河北町の特産でありますペアスリッパを贈呈したいというふうにも考えております。

ただ、婚姻届を出すというのは、河北町の人は河北町だけでなく、ほかの市町村にも出されるということもございまして。あるいは、河北町に婚姻届を出す方が河北町に住まれなくて、ほかの市町村に住まれるということもあるということで、その後のことになるような感じはしております。

よって、今税務町民課さんと協議しながら、こういった形がいいのか、そういったことで今検討させていただいているところでございます。

それから、河北安心子育て応援事業給付金の2,350万円でございますが、これにつきましては、河北町に住んで子育てを続ける子育て世帯への経済的負担を軽減したいということで、来年度から実施させていただくものでございます。

まず、出生時に1人10万円支給するということと、それから、小学校進学時に5万円、それから、中学校進学時に5万円という形で、今のところ出生数につきましては、年々減っているところではございますが、90人を見込んでおります。

小学校進学関係につきましては、140人、

中学校進学につきましては、150人ということで、2,350万円を計上させていただいているところでございます。

続きまして、69ページでございますが、認定こども園整備事業費補助金でございます。2,220万円ほどでございますが、これにつきましては、これまでどおり、あいこども園さんとひなのこども園さんと2つの事業に対しての補助金でございます。

償還に対する補助ということになります。あいにつきましては、1,107万7,000円、ひなのこども園につきましては、1,146万7,000円というふうになっているところで、この2件だけとなっております。

○東海林委員長 「4番木村章一委員」

○木村委員 自動車購入でありますけれども、エネルギー棟に2台分の電源を設けるということでもあります。どのタイミングに充電するか、1日走り回って最後に帰るときに充電して帰るとというのが一番と時間の無駄にはならないというふうになります。朝から充電すると、それから30分とか1時間とか、充電できなくなるというふうになりますし、急速充電の場合ですから、ゆっくりと充電するとなると何時間もできなくなるということ、半日ぐらいですね、充電、使えなくなるということもありますので、2台分というのがそもそも妥当かなという問題。

それに遡って、この時期に新庁舎建てるに当たって先々ハイブリッド車でいいのかと。やはりEV中心になってくるのではないかと、時代の想定というのは必要なんじゃないでしょうかね。

ここからもう既に切り替えるというふうにしないと、この2台分ぐらいの電源しか準備しないというふうにもなると思うんですね。

この辺は、特に充電設備については、もっと増やす。3倍ぐらい、6台分ぐらいとかに

しておかないといけないのではないかと、というふうに思います。

さらに、せっかくですから、新規の自動車もEV車にすべきだと思います。もう一度お聞きします。

防災士については、これは答える担当は別なところになるのかな。発災時の防災士の活動、防災士さんを増やしていくということですが、7月豪雨のときに、防災士さんに特にいろいろ活動していただくという場面がつけられなかったといえますか、想定して、考えていなかったということなので、その辺のどう位置づけていくのかについてお聞きしておきたい。

コンビニ収納について、なかなか時間がかかる検討、じっくりと検討していることのように、県が進まないのにやるみたいなき感じになるんでしょうかね。

ただ、時代の要請、多様な収納というふうな時代の要請なんですね。それが少しもっと敏感にしていくべきなんじゃないのかなと思います。

この際、いつまでに結論を出して取り組むというような期限を切ったほうがいいんじゃないですか。令和3年度中にはちゃんと結論を出して、4年度からするとか、そういったことについてお聞きしておきたい。

個別施設計画については、分かりました。

ドローンについては、既にドローンの講習を受けた者がいるということですが、河北町でドローンは持っていないんですね。

使ってみると、今回の雪のときなども屋根の雪の状況どうかと。その雪によって何かどこかがちょっと傷んでいるかもしれないとか、この雪を見るのにも足場を組まずに済むなどということとか、あと、樹園地の樹木の状況がどうだなんて見るのにも、行かずに現地で見て、あまりひどいときにはやはり農家に

行ったほうが良いぞというふうなアドバイスもできるとかという点でも、16分ぐらい昨日の質疑で使えるということでもありますから、非常に使い勝手はいいものになるというふうに思いますので、しっかりと使って行って、さらにもっと台数を増やそうかというふうなことになるものだと思いますので、講習を想定しているのかどうか。

するとしているのであれば、ぜひ複数の使いたい職場から人を集めて、そこで一緒に講習をすると。いざというときに、その部署の人が使えなくても別な人に助っ人として入ってもらえるなんていうこともありますから、そういったチームを組んでいったほうが良いのではないかと思うんですが、そういった考えはあるかどうかお聞きしたい。

庁舎建設基金については分かりました。

結婚支援については分かりました。まだちょっと具体的にどうするかという点で、分からないところがあるということのようですが、できるだけ使い勝手のいい制度にしてもらいたいですね。

それから、安心子育て応援事業給付金については、なかなか面白い事業ですので、ぜひ成功させていきたいということです。

うまくアピール、PRもして、アピールもしてもらいたいというふうに思います。

認定こども園整備事業費補助金は、今年度から追加でスタートする認定こども園があるようですが、そこはそのため、認定こども園にするために何か施設整備などしたのかどうかお聞きしたいと思います。

以上、もう一度お聞きします。

○東海林委員長 「後藤総務課長兼新庁舎建設課長」

○後藤総務課長兼新庁舎建設課長 2款1項1目一般管理費の公用車関係でありますけれども、充電設備といたしましては、新庁舎、庁舎南

側のほうに来客用、お客様用というふうなことで、もう1台設備が備えつけられる予定にもなっておりますので、そこを公用車の充電用として1日中使うというわけにはいかないと思いますけれども、そちらのほうの設備もあるというふうなことを補足させていただきたいと思います。

あとは、これからの購入予定でありますけれども、今年度については、特財もありまして、ハイブリッド車というふうなものを購入するというふうなこともあります。

来年度以降、公用車の整備の年次計画もありますので、その中で検討させていただきたいと思っております。

○東海林委員長 「秋場環境防災課長」

○秋場環境防災課長 山形県防災士養成講座への負担金ということで、防災士の養成につきましては、地域の地域を守るということで防災士の養成しているところではございますが、専門的な知識の習得がやはり必要であります。

そういう意味では、共助、役場庁舎も含めた地域、役場庁舎も含めた1つの地域として守るためには、防災士としての専門的な知識も必要でありますので、地区の住民合わせて役場庁舎内においても瞬時における判断等、防災の知識を習得するために、負担金を出して研修を受けていただくという意図かと思われます。

個人的に取得をするためには、費用も大分高くなってございますが、県で開催するところに参加するというので、比較的安価な金額で受講できますので、こういった負担金を計上していることかと考えております。

○東海林委員長 「堀米健康福祉課長」

○堀米健康福祉課長 認定こども園関係でございますけれども、来年度からひかり幼稚園が幼稚園型の認定こども園になるということで、実施したいということで、今やっているところ

ろでございますが、それに伴う整備費としまして、9月補正において、現在ある補助事業でございますので、それにのっとりまして、補正させていただいて、せんだって整備が終わったというように聞いております。

これにつきましては、国が2分の1で町が4分の1を出して、残り4分の1につきましては、本人というか、事業者負担というふうになるわけでございます。

それについては、予算措置させていただいているということでございます。

この幼稚園型認定こども園につきましては、幼稚園の中に保育機能を持った認定型ということで、ひかり幼稚園さんでは、ゼロ歳児から扱うというふうに聞いているところでございます。

○東海林委員長 「鈴木会計管理者兼会計課長」

○鈴木会計管理者兼会計課長 コンビニ収納等の実施時期等についてはですが、コンビニ収納、クレジット払い等、収納方法と併せまして、実施時期につきましても検討していきたいと思っております。

○東海林委員長 「宇野政策推進課長」

○宇野政策推進課長 2款1項8目視聴覚用品、ドローンの購入についてでありますけれども、現在予算をつけて、来年度の予算という中では、講習会の予定は今のところしていません。

1つは、まずは、情報の係のほうでまずは取得させていただきたい。その上で、庁舎内の中で講習できればというような方向に行きたいというふうに考えています。

また、その先、チームという考えでございますけれども、委員おっしゃられたように、幅広い活用が見込まれますので、そこら辺も併せて操作できる職員を多数増やしていくところかなというふうに考えております。

○東海林委員長 「4番木村章一委員」

○木村委員 自動車購入費でありますけれども、

エネルギー棟に2台分の充電設備、役場新庁舎の南側に一般町民、一般利用者のためということですから、ここの3台だけだと年がら年中使っていて、役場前に町民向けになっていたはずなのに、いつも何か役場の電気自動車が充電しているみたいになって、非常にまずい、そんな使い方は多分できないと思います。

エネルギー棟の2台分については、もっと増やしてもいいんじゃないですか。その場合にどのぐらいの充電時間を取らなきゃいけないとか、想定すれば、10年後ぐらいにはほとんど全部電気自動車になっている可能性ありますよね。

役場庁舎は50年ぐらい使うんでしょう。そのときにまた追加工事なんてするよりは、今やったほうがずっと安上がりだとも思いますので、ここはまず考えておくと。この際ハイブリッド車をEV車にしたほうが私はいいと思います。

もう一度そのエネルギー棟の充電設備、台数分については、検討しなおしてもいいです。今幾ら、何台分増やすというんじゃないかでもいいと思いますが、10年後にEV車何台になるか。その充電するのにどのぐらい時間をかけなきゃいけないと。そうすると、全然2台じゃ足りないというのは分かると思います。

いかがですか。ここをちょっと、もう一度お聞きします。

それから、防災士の研修に関連しての、私お聞きしているのは、発災時に防災士にどんな活動をしてもらう。役割を果たしてもらうということをこの間の7月豪雨ではそういったことがありませんでしたので、どう位置づけていくかと。せっかくここで勉強してもらって、いろいろなスキルを身につけていただいたのに、出番を作れないと。出番はあるんだけど、ちゃんと出番、役割を果たして

もらえないという状況があったので、そこをどうしていくのかという質疑です。もう一度お聞きします。

コンビニ収納については、これからいつまでということも決めると。いつまで検討は、いつまで結論出しますか。検討はずっと続いてきているというのですから、じゃ、結論出す、いつからというのは、検討で決めるんでしょうけれども、いつまでに結論を出す。

ちょっとしつこく聞きますが、結構ニーズあるんですよ。河北町でもやってほしいというニーズもありまして、いつまでに結論を出すということがあればお聞きしたい。

認定こども園なんですけど、そういうふうにしますと、ひかり幼稚園が幼稚園型の認定こども園を令和3年度からスタートすると。そのために、設備も造ったと。2分の1の事業所負担が残ったと。

同じ流れなんですよ。あいこども園、ひなのこども園もそれに残った。補助金を受けて残った、要は借金して、借入して、その分についてこの整備事業費補助金で補填してあげているんですね。

これは、ひかり幼稚園に対してはちょっと不平等なんじゃないですか。同じようなことだったら、やっぱり補填してあげる。もともと逆に、私はそういうふうには当然補助金もらったの残り、事業所負担分ですから、そこにはお金もそういう形では出さないで、それで保育士の待遇改善とか、子供たちのために使うものとしてちゃんとそういうふうな色をつけた補助金として出すべきだと申し上げているんですが、1回出すと決めた補助金なので変えられないということで、そのまま続けておりますけれども、これだけの金額ですと、保育士の待遇改善などに使えば、1人月額数万円、三、四万円ずつの給料を上げることができるとか、そういうふうになるほどの金額

なんです。それが借金返済ということで、ずっとどこか法人の運営費のほうに回すことができるお金になっているというのが非常にもったいない使い方だというふうに指摘しているわけでありまして、それがここに表れてきている。新しく認定こども園ができたときに、こんな形で表れていると思うんですが、この指摘についていかがでしょうか。考えをお聞きします。

以上、もう一度お聞きします。

○東海林委員長 「後藤総務課長兼新庁舎建設課長」

○後藤総務課長兼新庁舎建設課長 2款1項1目一般管理費の公用車関係でありますけれども、充電器の増設につきましては、当然初期投資で台数を増やしたほうが効率的だということ、予算的には効率的だということがありますので、その1台幾らというような金がさといえますか金額、ここで申し上げることができませんので、確認いたしまして、検討ができるのであれば検討というふうなことにさせていただきたいと思います。

○東海林委員長 「秋場環境防災課長」

○秋場環境防災課長 防災士につきましては、この7月豪雨でうまく機能しなかったというようなこともお聞きしているところもあります。

防災士として専門的な知識を習得し、先導的、あるいは避難のときの誘導など、発災時においては率先した活動できるような体制を整えていく必要があると思っております。

そういう意味では、庁舎内からも地域からも多くの方に防災士の専門的な知識を習得していただいて、率先して誘導していただくような活動にしていいただければと考えております。

○東海林委員長 「河内副町長」

○河内副町長 収納関係のいろいろな方法の検討に併せて、町民の皆さんのニーズにお応えす

るような形で、クレジットあるいはコンビニ収納といったような収納方法の検討を進めているところでございますが、いつまで検討を続けるんだというようなお話かと思いますが、これまでは検討した結果、手数料の問題で、手数料が非常に高いと。それよりは、今町が行っているような収納方法でやったほうがなるべく経費をかけないで効果を上げると。最少の経費で最大の効果を上げるという基本理念に基づきましてやってきたつもりでございますが、ただ、委員おっしゃるように、世の中の社会の流れといいますか、収納については、様々な方法が出てまいりましたので、そこは町民のニーズにお応えするような形で、いろいろな方法を取っていかねばならないという、基本的な考えは持っているところでございます。

ですから、できれば早い時期にというような基本的な考え方で、そういった方法を取り入れていきたいと。

何月からというような、あるいは何年からというような、ちょっとはつきりまだ申し上げることはできないんですが、収納のシステムの改修も必要ですし、あと、納付書のほうにバーコード等の新たな印刷も必要になってくるということもございますので、その辺の経費も勘案しながら検討して、なるべく早くというふうに考えております。

○東海林委員長 「堀米健康福祉課長」

○堀米健康福祉課長 認定こども園の整備事業の関係の補助金でございますけれども、ひかり幼稚園さんで来年度から幼稚園型の認定こども園にやっていきたいというような相談を受けて、その補助事業等についても説明しながら、実施させていただいたところでございます。

現在の補助事業、国の補助要綱がございしますので、それに基づいた形で現在は支出させ

ていただいているということではございます。

あいとひなのこども園と同じように、償還に対する補助も必要ではないかということなんですけれども、ひかり幼稚園さんでは今のところ借入は起こさないで、自己資金の現金ということになるわけではございますけれども、ただ、あいとひなのこども園の整備に関しては、木村委員も当然ご存じかと思っておりますけれども、二十一、二年頃でございますが、町内に5つの幼稚園、保育所がございました。その幼稚園、保育所について、幼稚園、保育所の再編が必要だということで、在り方検討会、そういった形で実施されて、2つの園という、町主導で実施してきたという事実がございまして、スタート時点は当然違っているわけですので、町主導でやった結果として、この整備事業補助金があるということで、今回とはまた違うのではないかとこのように考えております。

○東海林委員長 時間ですので、以上で4番木村章一委員の質疑を終わります。

次に、「5番吉田芳美委員」

○吉田委員 じゃ、私のほうからは3点ほど質問させていただきます。

まず、43ページ、2款1項5目総合戦略推進事業の企画に当たります。

人口減少対策、少子高齢化に歯止めをかけるための移住支援の取組というふうな内容で430万円計上されておりますが、なかなか厳しい状況かなというふうに思っています。

せんだって転入、転出の資料を頂きましたが、入ってくる人と出ていく人とほぼ2割ぐらい、もうちょっととなっているかなというふうな状況で、その辺のところを少しお伺いしたいなというふうに思っています。

具体的には、河北町に入ってくる人、そして、出ていく人というのが結構寒河江とか山形とか天童とか、そういった東根とか、かな

りいらっしやる。移住政策で非常に頑張っても、出ていく人が歯止めをかけることができないと、なかなか人口減少の対策には決め手とならないと。その辺のところを総合的にやはり移住政策というふうな内容の取組が必要ではないかなというふうに思いますので、その辺のところちょっとお聞かせ願いたいと。

あともう1点、プール跡地への地元回帰促進事業に係る調査費用25万何が出ています。先進地視察旅費22万8,000円、どの辺のところを予定しているのか。そして、どういうふうなメンバーが行かれるのか。その辺のところをお尋ねしたいと。

あと、その中で、プロポーザル委員報酬費1万7,000円入っています。これは、先般の質問の中で森谷町長のほうは事業所と連携した取組を考えているんだというふうなお話がありました。どの辺の連携になるのかなというふうな、構想をちょっとお聞かせいただければ幸いです。

あと、2番目は77ページ、4款1項5目健康推進事業、重粒子線がん治療費助成事業125万6,000円、これは県の事業に多分山形県35市町村全て連携して2分の1を補助するというふうな内容かと思います。

ただ、町民は、新規事業であり、どんな内容なのかというふうなことをちょっとお話しいただければと思っています。

保険適用外というふうな内容で、例えば314万円ですか、保険関係が全く利かないですよというふうな対象の人に対しての保険というふうな内容で、せんだって説明もいただきましたが、この辺のところは、なかなかがんの方が結構町内でもいらっしやいますので、興味津々で一応見えていますので、どういうふうな方に対してこの助成が受けられるかというふうなことをちょっと説明いただきたいと。

あと3番目、75ページ、4款1項3目河北

町路線バス運行事業2,072万円。前々から空バスで走っているというふうな内容で、町民からいろいろなことが言われた事業になっています。

令和2年度は、調査検討するんだと、そういうふうなお話をずっといただいていた。どのような検討結果を踏まえて、令和3年度変化点があるのかどうか。変化点がなしの状態のまままた走り続けるのか。その辺のところをお聞かせください。以上です。

○東海林委員長 「宇野政策推進課長」

○宇野政策推進課長 1点目の42ページ、43ページ、2款1項5目総合戦略費に関わるところでございます。

転入転出の状況というところでございます。こちら、昨年、令和2年4月から今年の1月までの状況でございますけれども、転入につきましては267、転出については323ということで、その差が56というふうな結果でございます。

転出に注目しますと、323のうち、県内、河北町外の県内ですね、にお住まいになったのが221ございました。さらに、県内でも多いところが山形市62、寒河江市46、あとは東根、天童がいずれも30人台というふうなところになってございます。

人口ビジョンのところにもありましたけれども、1つは、いかにして人口の減少を抑えていくかというところでは、まずはこの転入も必要ですけれども、転出も抑制するということも1つ考えてございます。

そこで、1つは、この住宅開発、次の住宅開発についても1つ地元回帰促進というふうな仮称でつけてございますけれども、そういう意味合いも込めて、この住宅開発のほうも1つの策として進めていきたいというふうに考えているところでございます。

あともう1点、その住宅開発を進めていく

上での旅費というところがございます。近隣にも東北管内にもこういったような公的な住宅開発を大手メーカーさんが進めているところもございます。ただ、いわゆる公共用地のところにといった、我々が想定しているようなところが少し近隣には事例を見つけることができませんでした。1つ見つけたのが、ようやく見つけたのが九州のほうにございました。こういった状況下ですので、可能かどうか、あるいはそこに先進地ということで行けばいいかなというふうなことを考えていますけれども、一応職員2名分を取ってございます。

ただ、行けなければ電話でも確認できるかなど。できれば行って、どういった状況をお聞きしたいというような考えでございます。

あと、プロポーザルの謝礼というところがございます。先ほど大手住宅メーカーさんのほうからもアプローチなどもありますし、そういったところに規模等をお示ししながら、どういったものができるか。民間事業者さんのお知恵も借りて、その中で提案をしていただくプロポーザル方式を取って、開発の方式を決めていきたいというような考えでございます。

○東海林委員長 「秋場環境防災課長」

○秋場環境防災課長 75ページの路線バス事業費に関連してであります。調査検討の内容ということでありますが、令和2年度におきましては、アンケートを実施いたしました。どういった利用をしているのか、町外に行くのか、町内での利用なのか、幅広い年齢層からの調査、600人を対象にアンケートを実施したところであります。

その中で、回答が約半数以上、600人に対して301人、50%以上の回答を得て、その中では、路線バスの維持に関する要望は強くありました。今現在は利用していませんが、今

後必要になるので、維持をお願いしたいというような内容が大半であり、今の路線バスについての維持を要望する意見が大半であったかというふうな印象を持っています。

そんな中で、検討委員会もそのアンケート結果を基に検討委員会も開催し、その中では、維持することについては、必要だということの考えは強かったわけではありますが、フリー乗降、いわゆる路線内であればどこでも手を挙げることによって乗ること、降りることができるという、フリー乗降制度について、知らなかったというような意見も多かったものですから、フリー乗降制度についても周知を図りながら、そしてまた、運転免許証返納した場合に、無料でいわゆる定期券を交付しているというような制度についても知らなかったというような意見もありましたので、運転免許証返納したときに町内路線バスの無料定期券、更新すれば1年更新ですが、何回と更新できますので、そういった制度周知についても必要だというご意見をいただき、今の路線バスを維持しながらも、必要な情報を提供していきたいという考えであります。

なお、意見の中にはドア・ツー・ドア、やはり自宅から目的地まで行けることも意見としてはありましたので、路線バスを維持しながらも、今後の公共交通の在り方については、引き続き検討、研究していきたいと考えております。

○東海林委員長 「堀米健康福祉課長」

○堀米健康福祉課長 77ページの重粒子線がん治療患者支援事業費補助金125万6,000円でございますけれども、この事業につきましては、ご存じかと思っておりますけれども、山形大学医学部の東日本重粒子線センターにおきまして、もう既に一部開設というか、実施されているものでございます。

一応この放射線治療という形にはなるわけ

でございますけれども、これまでの放射線治療よりも負担が少なく、時間も短くて済む、いわゆるピンポイントで照射できるというふうには聞いております。

そういったことで、かなり効果性のあるもののかなというふうには思っております。

この事業につきましては、山形県の補助事業になっておりまして、2分の1の事業ということで考えているところでございます。

314万円の一応治療費ということでございますが、これは、お聞きしておりますと、厚生労働省との協議の中でまだ保険適用されていないところなんですけれども、314万円ということで、1回でなくて、1クールというんでしょうか、何回、その患者さんにとって何回かの照射が必要になるわけですけども、その1治療分が314万円というように聞いています。

その2割分として62万8,000円を上限に補助したいということでございます。

これは、県の補助事業の要綱にもものとしてやっているところでございます。

ただ、本格実施が8月というように聞いております。8月からは、超電導技術を用いた回転ガントリーというような回転式の重粒子線照射になるようでございますが、それが8月から本格的にやるというような感じでございます。

現在保険適用されていないところではございますが、そういった中で、結構県外からもやはりそんなない施設でございますので、県外からも来ているというように聞いております。

1日二、三人程度で、年間600人から700人ぐらいというような想定の中で、完全予約制の中で実施されるというような、そんな状況であります。

○東海林委員長 「5番吉田芳美委員」

○吉田委員 ありがとうございます。

最後のほうからちょっとお伺いいたしますが、保険適用外で340万円、これが多分一番高額な医療費になるのかなというふうに思いました。

そのほか、保険関係がいろいろ適用されますよと。そして、なおかつ、収入によっていろいろ差がありますよというふうな内容かと一応理解いたしました。

例えば、私が前立腺になりましたとなったときに、私の年収でこれだけ支払って下さいよと。町長が前立腺になりましたとなったときには、私より3倍ぐらい高いお金を出さなくちゃいけないと、そういうふうな形だと思えます。

ただ、申し込んでもなかなか受けられるかどうかというやつは分からないというふうな内容ですので、この辺のところは非常にやっぱり興味を持っていらっしゃる方が、がんで苦しんでいらっしゃる方がいらっしゃいますし、あと抗がん剤の治療を受けている方がたくさんいらっしゃいますので、より広くPRしていただいて効果的な治療だというふうに確実になれば、助かる命が増えるというふうな形になりますので、よろしくお願ひしたいと思います。

あと、路線バスのやつなんですけど、何かやはり目玉があってもいいんじゃないかなというふうには私自身思いました。

今年は非常に豪雪で、介護をする人がえらい大変だというふうな声をあちこちからやっぱり聞きました。そして、今回ヤマザワさんも一応出ました。でも、ヤマザワさんは、道路からお店までは結構なやっぱり距離なんかもございます。そういうふうな内容で、朝晩のダイヤ編成というやつは、なかなかやはり崩すことはできないと思えます。

この辺は私は承知しております。しかし、

日中のダイヤというふうな内容については、よりやはり町民のニーズを的確に捉えて、もっと運行の仕方を工夫する必要があるんじゃないかなというふうには私自身思っております。

例えば、河北病院、何々先生が何曜日来ると。そのために私は通院しているんですよと。そういう方なんかもいらっしゃいました。そして、あそこの河北町には町内にたくさんの病院がございます。そういうふうなところで、私は何曜日だ、私は何曜日だと、そういうふうなことを拾い集めていけば、空バスで走るよりも私は有効的な使い方ができるんじゃないかなというふうに思っています。

これも先ほどの4番委員の話と同じなんですけど、検討する、検討するというところで、何年も同じような言葉をいただいています。何が変わるんですかというふうな内容がなかなかないと。全てを変えろと言っているわけじゃないんですが、今年はこれを変えたいと思いますと。そういうふうな言葉がやはりあってしかるべきかなというふうには思っています。

その辺のところ、やはり町民のニーズにもっとやっぱり見た上で、的確に努めていただいて、やれない理由をずっと述べるんじゃなくて、今年はこれがやれるようになりましたというふうな取組をぜひお願いしたいと思います。

これは、前回監査委員からもやはりもっと見方を変えて、町民ニーズに合ったような路線を組んでいただきたいというふうなご指摘もされたかと思えます。

期待はしておったんですが、なかなか厳しい状況だなというふうなことは一応理解させていただきました。

あと、最後ですが、移住政策、やはり移住政策でお金を毎年毎年相当額使いますと。そ

して、受入れに相当数がやはり労力も要しているということはよく理解できます。

ただ、それが全て河北町に滞留していただければいいんですが、やはり山形のほうに今年は62人転出しましたと。寒河江市に46人転出しましたと。天童市に31人、東根市に35人、この方が止まっただけであれば、ある程度人口減少というのがブレーキ多少踏めると。それがやはりトータルの人口減少対策にはなっていないと。だから、よそから人を呼び込むというふうな内容も非常にこれは大事なことだと思うんですが、この町から人を出さないというふうな取組が私はあってもしかるべきかなというふうに思っています。

どの辺のところを分析するのか、ちょっと分かりませんが、なかなか厳しい内容かなというふうには思います。

この辺のところについて、ちょっと政策推進課の課長のほうのご意見をお伺いしたいと思います。

○東海林委員長 「宇野政策推進課長」

○宇野政策推進課長 この町から出さない策というところがございますけれども、1つは、どうしても大学進学という壁がございますので、ここで一旦町内から離れていただく。ここはやむを得ないというふうに考えています。

ただ、この人たちが帰ってくる、河北町に帰ってくるという状況をつくるのが大事かなというふうに思います。

そこで、長いスパンにはなりますけれども、郷土愛の醸成、こういったところもありますし、あとは、もう一つは、一番、職という観点が問題かなというふうに考えています。

ただ、この町にそのような希望するような職場を全て設けるわけというわけにはいかないというふうに考えますので、そういったところは、住まう町、居住空間といったもの、医療、子育て、教育、そういった環境も入り

ますけれども、住まう環境を充実していくところどころが大事なかなというふうに考えているところがございます。

○東海林委員長 「5番吉田芳美委員」

○吉田委員 やはり、この町で一番の人気ある職場どこですかというと、大学生の皆さんは役場に入りたいたううんですよね。でも、役場は2人とか3人とか4人ぐらいしか採れない、大変狭き門だと。それ以外となっちゃうとなかなかやはり皆さん戸惑っているというふうな状況じゃないかなというふうに思います。

今山形広域連携というふうな内容で、多くの市町村が入ってやるような形にはなりませんが、やはり事河北町というふうな内容を考えたときに、やはり厳しいものがあるというのは重々やっぱり認識しております。

今回情報産業をこの町に呼び込むための施策もやるんだというふうな話は、委員会の中で一応私は承りました。そういうふうな若者がやはり魅力ある産業、また、そういうふうな情報というやつをニーズをつかんでいただいて、実際に本当に残っていただくような施策というやつを期待して、私の質問を終わらせていただきます。ありがとうございます。

○東海林委員長 以上で5番吉田芳美委員の質疑を終わります。

次に、「6番植正義委員」

○植委員 私は、同僚委員が自動車、ドローン等のお話もありましたので、1点だけ質疑をさせていただきますと思います。

ページ、38、39の2款1項1目の区長会費、地域振興総合交付金の課題であります。先日予算状況調査の説明では、除雪に関わる共助事業等を追加するというので、これは継続事業ですが、約100万円ぐらい前年度よりも増えているんですが、まず1つは、この除雪に関わる共助事業の具体的な事業名等、想定されている事業名等をまずお伺いしたいとい

うことと、それから、この地域、いわゆる総合交付金は、2つになっていまして、基本事業とそれから加算事業ということになっているかと思うんですが、この加算事業というのはややかなりこれまでも1つのパターンがあって、そんなに代わり映えのしない事業がたくさん出ているんですけれども、もう少し私は、各地域の皆さんの話を聞いて、今回この除雪関係の考え方を地域にいわゆる共助事業として追加を加算事業にしていくということもあるんですけれども、私は、例えば私の一般質問させてもらった地域の高齢者のごみ出しの問題も困難な問題も含めて、地域コミュニティを成熟させて、そして、いわゆる地域の方から支援をしてもらう。そして、無償ではなくて、一定の実費的なものをこのいわゆる総合交付金事業の中で支払って、お互い共助という立場での事業をやっていくと。

近くの山形市なんかもそういうごみだしの事業なんかもやっているんですけれども、ここに来てお聞きしたいのは、除雪に関わる共助事業をあえてぱっと出してきたというのではなくて、もう少し総合的に地域コミュニティを信頼して、町と信頼関係を醸成させて、いろいろな角度からいわゆる総合交付金事業を見直すと。その前提とすれば、各地域の区長さんはじめ、地域の皆さんからよくお話を聞いて、変えていくと。そういうことがあってしかるべきではないのかなという感じをしています。

後半の話は、私の希望なんですけど、とりあえず予算説明のときにあった、除雪に関わる共助事業というのは、具体的にどのようなことを想定しているのか。

あとは、その想定の前算的な規模などについてお伺いしたいと思います。

○東海林委員長 「後藤総務課長兼新庁舎建設課長」

○後藤総務課長兼新庁舎建設課長 2款1項1目の一般管理費の中の区長会関係ですが、地域振興総合交付金のお尋ねでありますけれども、令和3年度の予算におきましては、委員がおっしゃるとおり、除雪関係の共助についての事業を盛り込みたいというふうに考えております。

内容といたしましては、この冬大変雪が多かったわけでありまして、除雪については、町のほうでも間口除雪等々の措置はやっているわけですが、まだタイミング的なものもありまして、十分なものではないというふうなことの要望も地域からいただいているところであります。

それに対しまして、今回に限らずですが、交差点が見えにくいなどというような声も聞こえておりますので、そういったことも含めまして、地域内の間口除雪に関して助け合いでありますとか、交差点の見通しの改良というふうなものも町内会で引き受けてもいいよというふうな声も一部の区長さんからはご意見という形でいただいたところであります。

そういったことも踏まえまして、地域の方のお力で自らの手でということもありましたので、そういった内容の交付金というふうなものの積算を見込んだというふうなことであります。

もう一つ、加算事業についてでございますけれども、地域コミュニティの力が人口減少で落ちているというふうなことが言われて久しいわけですが、地域振興総合交付金については、まさに地域振興に資するというふうなことから、加算事業いろいろなものを設けているわけですが、中身については、町内会で町内会行事の財源として当てにしているところも多々ありますので、こちらについては、委員がおっしゃるとおり、今

年度については、コロナ禍の中で意見をお伺いする機会というのがなかなか難しかったわけですが、区長さん、町内会の方から意見を聞くというようなことは当然必要なことだと思いますので、今年度についてはそういった機会をぜひ設けたいというふうに考えてございます。

○東海林委員長 「6番榎正義委員」

○榎委員 ありがとうございます。

やっぱり区の加算事業については、少し10年以上経過した、このいわゆる総合交付金の手引も含めて、各集落でやってきた、市町でも事業として展開をしてきたと思いますが、この間様々な地域コミュニティの変化もありますので、よく区長さんや地域の人とご相談をして、やっぱり使い勝手のある、あるいは町がなかなか直営でできかねない、しかし、地域で困っているというようなことをどうするかということで、議論をして、方向性を出していただきたいなというふうに考えています。

そこで、具体的に、今回提起された除雪に関わる共助事業等という中に、私は交差点の見通しをよくするために、集落の中でやっぱり少し崩したり、そういうことなどはよく想定されるのではないかと。

あと私は、除雪作業で今除雪を円滑にするために雪押し場を町全体が広めていこうと。設置を多くしていこうと。そういう提案して、今各地域の皆さんがそれを受け入れているんですが、その春先になりますと、積み残した分がなかなか消えないと。それを例えば崩して、早く農作業に利用できるように崩していただくということも各地域ではいろいろな課題になっているようです。

例えばそういう見通しをよくする、雪を崩す、それから、雪押し場の後始末を地域で少し雪を崩すとかという程度は、各地域でも理

解をすると思うんですが、私は、道路除雪の町の除雪の1つの課題として、重要な問題として、間口除雪をしてから何年も経過して、一定の評価をいただいていると思うんですけども、私は、間口除雪までこの地域の皆さんにこれをお願いするというのは、なかなか大変なことなのではないかということで、少しその辺も含めて整理をしていただいたほうがいいのではないかとこのように思いますが、いかがでしょうか。

○東海林委員長 「後藤総務課長兼新庁舎建設課長」

○後藤総務課長兼新庁舎建設課長 町内会によりまして、大きい道路に面している町内会もあれば、そうでないところもあるというふうなことで、地区によって事情が異なるということもあると思いますので、また、この事業を予算化するに当たって、特に、区長さん方からお話を詳しくお聞きしたというふうなことではありませんので、それに関しては、委員がおっしゃるとおり、地域からの意見を聞いた上で、詳細のほうは詰めさせていただきたいと考えております。

○東海林委員長 「6番楨正義委員」

○楨委員 その間口除雪まで想定をしているということは、やっぱり地域の皆さんにも荷が重たいし、せつかく町の除雪計画の中に間口除雪をしっかり織り込んで、それを充実させるということで、町民の皆さん、地域の皆さんで期待をしています。

なかなかそれを総務課長言ったように、地域でもやってもいいよというような人があるとか、ないとかというお話もあるんですけども、都市整備課長、間口除雪の定着に向けて、今一生懸命取り組んでいる矢先だと思うんですが、担当所管の課長としてはどんな感じを持っていますか。

○東海林委員長 「須藤都市整備課長兼新庁舎建

設課主幹」

○須藤都市整備課長兼新庁舎建設課主幹 道路除雪の後にですけれども、町道の除雪で両脇に寄せられた雪について、間口除雪ということで、タイミング的に課題として、やはり遅い時間ということで、それが実際間口から出ていくタイミングと時間差があって、なかなかそうした部分もスピード感に今の除雪体制ではついていけないといった課題などもある状況でございます。

そうした中で、今現在あくまでも限定的に町道の間口除雪ということで、実際はニーズとしては、そうしたものが県道、国道の部分にも及ぶような間口除雪にしてほしいなどといったニーズも多々あるところではありますが、なかなか町のほうの町道除雪管理という中では、国道、県道までは及べないというふうな部分もございます。

やっぱりそうした部分は、地域コミュニティーを向上した中で、地域力の向上のためにもみんなでお互いさまでやるというふうな部分ではやはり今総合交付金のほうで提案されているような、そうしたものもうまく使っていけそうな地域などもございますので、そうした部分は、やっぱりケース・バイ・ケースでやれるところは、やっぱり地域力を上げるという部分では必要なものかなと私は思っているところでございます。

今現在町道除雪に関わるそうした年齢要件あるいは障がい者の要件などもございますけれども、該当者数としましては、町道の関係する世帯数としては496世帯、そのうち、対象世帯ということで登録している部分が268世帯といった状況にもございますし、実際国道、県道加えれば、その分の数字は押さえておりませんが、まだまだたくさんニーズがあると思いますので、やっぱり地域力向上という部分の中では、そうした今回の総合

交付金など活用する部分の中で、ある程度やれるところはぜひ共助という観点からもやれる方向に行ったほうが地域づくり、まちづくりのためには方向性としてはいいのかなという部分は、我々道路を管理する町道管理者の立場としては、ちょっと期待をしているところでもございます。

○東海林委員長 「6番楨正義委員」

○楨委員 間口除雪、町道の除雪については、町道を中心にして、経済活動やいわゆる生活道路をきちんと整備するというのは、基本だと思えますけれども、そういう意味では、私は地域のコミュニティーは、そこまで間口除雪を硬い塊をなかなか地域の皆さんがやると。自分の家の前だけするに精いっぱいだと。

そういう意味では、地域コミュニティーがそんなにしっかりしているとはなかなか思えないので、そこは、徐々にやっぱり交差点の見えるようにするところとか、あるいは雪押し場の、先ほど言ったような崩し方をして、次の年も雪押し場を借用できるようなこととか、その間口除雪も含めて、言葉として提案するというのはなかなか私は厳しいなというふうに思いますので、よく地域の皆さんとご相談をいただいて、そして、やっぱり地域コミュニティーを期待をし、頼らなきゃならない、何でもかんでも町でやれるということもできないような状態もあると思いますので、この地域コミュニティーを成熟させる手だてもやっぱり必要なのではないかと。

そして、地域振興総合交付金の見直しをしっかりと縦横から見据えて、あるいは今の地域コミュニティーの成熟度を見据えて、やっぱり見直すところは見直すということをぜひお願いしたいということで、私の質疑を終わらせていただきます。

○東海林委員長 以上で6番楨正義委員の質疑を終わります。

○東海林委員長 ここで10時35分まで休憩いたします。

休 憩 午前10時19分

再 開 午前10時34分

○東海林委員長 休憩を解いて会議を再開します。質疑を行います。

次に、「7番石垣光洋委員」

○石垣委員 それでは、38、39ページ、2款1項1目ファイリングシステム導入支援業務委託料107万8,000円、令和3年度で最後の年ということでもありますけれども、書類の検索がスムーズになり、時間の短縮につながるという説明を受けましたが、新庁舎移転後の支援も含むのかお伺いします。

次に、50、51ページ、2款2項2目賦課徴収費、町民税賦課業務費の過誤納還付金490万円、固定資産税賦課業務費、過誤納還付金30万円、この内容についてお尋ねいたします。

次に、58、59ページ、3款1項1目河北町社会福祉協議会補助金965万6,000円、生活保護等、誰でも金銭的、社会的に困窮に陥ることがあります。コロナ禍では、雇い止めや会計年度職員の雇用がならなかった場合とか、福祉協議会での相談業務が命、生活を守る身近な存在となっていくと考えます。

令和3年度は、令和元年、令和2年よりも業務量が多くなると考えていますが、町はどう見ているのかお伺いします。

次に、60ページ、61ページ、3款1項4目老人福祉費、これは町外の施設ではありますけれども、お尋ねしたいと思います。令和2年7月豪雨により熊本県の特別養護老人ホームにおいて多数の利用者が亡くなるという痛ましい被害がありました。介護保険施設等が自力避難困難な方も多く利用されていることから、利用者の安全を確保するため、水害、土砂災害を含む各種災害に備えた十分な対策を講じる必要があります。

避難について、他市町の施設との連携について、どうなっているのか、ここでお伺いしたいと思います。現在の状況をお尋ねしたいと思います。

次に、60、67ページ、3款2項1目児童福祉費、ここで子供や指導員、保育士等のコロナ対策についてお伺いします。

○東海林委員長 「後藤総務課長兼新庁舎建設課長」

○後藤総務課長兼新庁舎建設課長 2款1項1目のファイリングの業務委託の関係でありますけれども、来年度新庁舎での業務が始まるというふうなことでありまして、ファイリングにつきましては、昨年度、今年度と業務委託いたしまして、座学あるいはルールに基づいた分類、収納というふうなもの実践とその指導というふうなことで、講師の方から来ていただいて、実地指導というふうなものをやってきました。

来年度につきましては、庁舎に移転するというふうなことから、当然収納についても今各課で持っている既存のキャビネット等も持ち込むわけですが、当然新しいものも準備するというふうなことから、それに即した収納の仕方というふうなもののご指導を受けるといふふうなことにもなっております。

それに加えまして、文書の管理の方法、文書管理規程等のご指導もいただくというふうなこともございますので、新庁舎移転後も業務委託によりまして徹底を図るといふふうな内容になってございます。

○東海林委員長 「矢作税務町民課長」

○矢作税務町民課長 ページ数で51ページ、2款2項2目賦課徴収費でございます。過誤納還付金、町民税賦課業務費の賦課過誤納付還付金490万円、また、固定資産税の賦課業務費におきます過誤納還付金30万円につきましては、これまでの実績等を勘案しながら見積も

った金額でございます。

○東海林委員長 「堀米健康福祉課長」

○堀米健康福祉課長 59ページの3款1項1目の社会福祉協議会補助金960万6,000円に関連することということではございますが、補助金につきましては、前年度から比べまして、約50万円ほど増えている状況ではあります。

これにつきましては、職員の方々の、失礼しました。関係する専門員1人の分、それから、心配事相談とか、あとあるいはバス運行など、いろいろありますけれども、そういった方々の、河北町、町として会計年度任用職員制度がされた関係もございまして、それに合わせた感じで、嘱託職員関係の方の人件費等がアップしているという状況にはあります。

確かに、災害からいろいろな形で社会福祉協議会のほうに相談業務が大変増えている状況にはあるところではございます。

少額の小口資金関係ですか、社会福祉協議会を通して申請しているところでございますが、結構な件数が増えて、またさらには、延長されるというような話の状況でございます。

そういったことを踏まえた中での補助金の増額ということもあるところでございます。

それから、61ページの3款1項4目老人福祉関係の中での高齢者福祉関係の災害に対する連携と申しますか、施設ごとの連携ということではございますが、今のところは、特にそういった連携を図ることにはなっていないところでございますが、さきの一般質問の中にもありましたけれども、それぞれ災害想定される区域において、その計画書を作りながら、その計画に基づいた訓練も実施して、災害に対応しているということの中で、避難訓練等のそういった実施はやっているというふうには聞いているところでございます。

浸水想定区域の中の眺葉園と眺葉の家、これは同じ法人ではございますが、それぞれ違

う建物ということで、その中での連携を図って、眺葉の家から眺葉園のほうへの移動訓練、そういったものもやっているというような話は聞いているところでございます。

それから、3款2項1目の児童福祉総務費関係で、コロナに対する子供や保育士さんへの対応ということではございますが、これにつきましては、せんだって福祉関係団体の方々、高齢者福祉も含めて、児童福祉も含めた、そういった関係者施設の代表者の方等集まっていた中で、いろいろと今後のコロナ対応について話させていただきました。

これは、町長の答弁の中にもあったとは思いますが。

そういった中で、今後も今年度いろいろとそれぞれ施設にコロナ対策の感染拡大防止のための消毒液やらマスクやら、いろいろな備品も含めた対応をさせていただいたところでございます。

そういったことを来年度もお願いしたいというような要望がございましたので、ちょっとこれにつきましても今後検討させていただきたいというように考えているところでございます。

○東海林委員長 「7番石垣光洋委員」

○石垣委員 ありがとうございます。

ファイリングシステム、これも説明を受けましたけれども、業務のスムーズ化や町民へのサービス向上にはつながるということの説明が委員会でもありました。そのようにお願いしたいと思います。

あと、過誤納付金、前年度の例年の実績により見積りということで、過誤納還付金ということでございました。いろいろな詐欺の電話などがありますので、そこら辺周知などをお願いしたいと思います。

あと、社会福祉協議会では、やはり先ほどもありましたけれども、小口資金とか、あと

いろいろな補助の申請の手助けなんかは社会福祉協議会も中心になってやっているんだと思います。

そういう、このコロナ禍で本当に生活、自殺者も女性が増えているという状況の中で、役割がこういう団体に押しつけられているんだろうと思います。

そこら辺についても、町の指導や協力なんかをお願いしたいと思います。

1点だけ答弁をお願いしたいと思います。

○東海林委員長 「堀米健康福祉課長」

○堀米健康福祉課長 こういったコロナ禍の中で、いろいろな対応につきましては、福祉協議会と連携を取りながら、いろいろと生活困難者、そういった方々に対する支援はさせていただいているということで、今後とも連携を取ってやっていきたいというふうに考えております。

○東海林委員長 「7番石垣光洋委員」

○石垣委員 終わります。

○東海林委員長 以上で7番石垣光洋委員の質疑を終わります。

次に、「8番細矢誓子委員」

○細矢委員 それでは、私から4点ほどお聞きします。

最初は、39ページ、2款1項1目自動車購入費、3番、4番委員さんも既にお聞きになりましたが、いろいろ内容は分かってきました。その中で、これ車両なんかはもうお分かりになっているのか。その車両とかというのでも分かっているらっしゃるんだったらお聞きしたいと思います。

あとは、39ページ、同じく2款1項1目一般管理費、庁舎費、庁舎移転業務委託料614万1,000円、この移転のための業務委託料というのは、これは全部庁舎全部の委託料なのか。それとも各課ごとに移転のための委託料というのが出されているのか。議会事務局な

んかだと、やはり中継の何かの委託料がこのあれに出ておりましたので、各課でそういうものを出されているのか、ちょっとそのことをお聞きしたいと思います。

それから、45ページ、2款1項5目企画費、若者、女性総参加活躍推進事業費、河北町若者海外体験促進事業費補助金7万円、この事業内容と、この事業というのは、河北町独自の事業なのかどうかということをお聞きしたいと思います。

それから、同じく、2款1項5目企画費、企画調整事業費、美しい山形、最上川フォーラム会費3万円、この事業内容というのはどのようなものなのでしょうか。お聞きします。

最後に、59ページ、3款1項2目障害者福祉費、補装具費扶助費300万円、この補装具を受けていらっしゃる人の人数と、その補装具の中で一番多く使用されているというか、補助されているものは何か。まずそこからお聞きしたいと思います。

○東海林委員長 「後藤総務課長兼新庁舎建設課長」

○後藤総務課長兼新庁舎建設課長 2款1項1目一般管理費の公用車に関して、購入する予定の車両というふうなことでありますけれども、決まっておりますのは、先ほども申し上げたとおり、ハイブリッド車というふうなことを考えております。

その中でも、各社に該当する車両があるかと思っておりますので、車種は指定しないというふうなことで、乗車人数なり、排気量相当の装備なりを考えまして、今入札と契約の手続をやりたいというふうなところにあります。

あと、同じく2款1項1目の庁舎費の庁舎移転に関わる業務委託料でありますけれども、こちらのほうは、職員で運べるものは運ぶというふうなことを当然基本としているわけで

すけれども、重量が多いものでありますとか、あるいは特殊な車両を使うものもあるというふうなことからの業務委託でありますけれども、こちらについては、総務課で庁舎分については一括してここに計上させていただいているというふうなことであります。

○東海林委員長 「宇野政策推進課長」

○宇野政策推進課長 初めに、44、45ページ、若者、女性町民活躍推進事業費の中の若者海外体験促進事業費補助金でございますけれども、こちらのほうは、いわゆるパスポートの取得の補助金になります。1万5,000円という上限でございます。

財源につきましては、県と町で2分の1ずつというような内容になってございます。14人分を予定しているものでございます。

あと、美しい最上川フォーラムでございますけれども、こちらにつきましては、美しい山形づくりということで、運動を展開してございます。テレビコマーシャルなども、海をきれにするとか、ああいったような事業もなさっているというふうなところでございます。その市町村あるいは企業さんが参加して作っている団体でございます。そちらのほうの会費というふうになってございます。

○東海林委員長 「堀米健康福祉課長」

○堀米健康福祉課長 59ページの補装具扶助関係でございますが、一応300万円計上させていただいております。

補装具等の支給につきましては、その年によっていろいろと変わるわけで、どれが多いかどうかというのは、その時によって違うわけでございますけれども、今のところ、車椅子4件、それから、補聴器関係で13件、あと、義肢、義足等で2件ほど計上させていただいているということでございます。

そのときによっていろいろと違うところでございますが、件数的には多いときで、昨年

度は実績として35件ほどあったということでございます。

全体的な形で300万円を計上させていただいたということでございます。

○東海林委員長 「8番細矢誓子委員」

○細矢委員 ありがとうございます。

それでは、先ほどの車両なんですけれども、庁舎内の車両たくさんあると思いますけれども、これ車両管理、庁舎の車両管理はどのようになっているのかということをお聞きしたいと思います。

それから、先ほどの移転業務は分かりました。

それから、先ほどの若者海外体験促進なんですけれども、パスポート、この若者の年齢制限、例えば高校生なども含まれるのか。そこら辺もちょっとお聞きします。

それから、美しい山形、最上川フォーラム会費、民間の企業も入っていらっしゃるということでしたので、こういうのはやはり民間と一緒にSDGsの動きに一つ絡んだような事業になっているのでしょうか。その辺のところもちょっとお知らせいただければと。教えていただければと思います。

補装具のほうですけれども、その補装具、大体35件ほどありますということです。その補装具の本人の負担と、あとその上限というのは幾らになっているのか。そこら辺も教えていただければと思います。

○東海林委員長 「後藤総務課長兼新庁舎建設課長」

○後藤総務課長兼新庁舎建設課長 公用車に関してのお尋ねでありますけれども、庁舎で使用する、役場で使用する公用車につきましては、総務課で一括して管理、職員の出張でありますとか、そういったことで、総務課で一括して管理するものと、あとは、特殊な車両を含めまして、所管課で管理をするものの2通り

があります。

台数的には、各課で維持管理等をしているものが29台、総務課で管理しているものが9台というふうな内訳になってございます。

○東海林委員長 「宇野政策推進課長」

○宇野政策推進課長 パスポート取得につきましては、18歳以上という年齢要件がございます。上限は29歳、若者でございますので、そういった要件があると認識しておりました。

あと、美しい最上川フォーラムについてですけれども、もう少し詳しくお話ししますと、個人あるいは法人の会費、1口1,000円で参加できるというものでございます。このフォーラムにつきましては、いわゆる産学公民ということで、産業、いわゆる企業さん、あとは学術関係、あと公共団体、自治体あるいは普通の民間の人、こういったものを連携した組織というふうに、平成13年に創立されてございます。

もう少し身近なところですと、美しい山形ということで、最上川のクリーンアップあるいは本町でも開催しておりますけれども、スポごみ大会、ああいったところもこの最上川フォーラムのほうで主催をしているという事業でございます。

当然SDGsへの取組というところで、海の豊かさを守ろうですとか、こういったところを考慮した取組というふうになってございます。

○東海林委員長 「堀米健康福祉課長」

○堀米健康福祉課長 本人負担ではございますけれども、障がい者関係のことですが、補装具であります、上限として3万7,000円ほどということで、これは所得に応じた形で違ってくるかということでございます。

非課税の場合は、負担ゼロというふうになっているところでございます。

○東海林委員長 「8番細矢誓子委員」

○細矢委員 ありがとうございます。

先ほどの車両ですけれども、車両を考えるときのこの費用の問題ですけれども、もちろん現金というか、キャッシュで買われる場合と、あとリースという、車のリースということも今はあると思いますけれども、町の考え方としては、どのようになっているのかお知らせください。

○東海林委員長 「後藤総務課長兼新庁舎建設課長」

○後藤総務課長兼新庁舎建設課長 現状申し上げますと、リースで対応しておりますのが今年度予算の場合でありますけれども、町長車と1台ワゴン車タイプのものが1台あります。

そのほかのものにつきましては、基本的に購入して使用しているものというふうになっております。

これからの考え方でありまして、特に定めたものはありませんけれども、基本は購入ではないかというふうなことであります。

リース車につきましては、経費等も年数どのくらい使っているかというもので計算したのものもありまして、ものによっては割高かなというものもありますので、その辺は基本は購入ということにしながらも、その車種、特殊な用途、いろいろあると思いますので、そういったものにつきましては、併用というふうなものも考えていきたいというふうなふうに考えております。

○東海林委員長 「8番細矢誓子委員」

○細矢委員 分かりました。

やはり、車両なんかもちやんとそういう車両管理台帳みたいなものをおつけになられて、うまくきちんと管理されているということを私は初めて分かりましたので、この形で進んでいただければ、やはりリースということも中にはとても有利だという車種とか、そういうのもございますので、やはり選択肢

の中に1つ入れていただければと思います。

あと、さっきのあれはとてもよかったですね。美しい山形最上川フォーラムという、これは本当に素敵な事業だなと思っておりますので、ますますこういう事業がありましたら、河北町としても積極的に参加されて、そういう運動を進めていただければと思っております。

あと、先ほどの若者海外体験ですけれども、これで利用された方とか、人数なんかは把握されておりますでしょうか。

○東海林委員長 「宇野政策推進課長」

○宇野政策推進課長 残念ながら、令和2年度においてはゼロ件でございました。

○東海林委員長 「8番細矢誓子委員」

○細矢委員 ありがとうございます。終わります。

○東海林委員長 以上で8番細矢誓子委員の質疑を終わります。

次に、「9番阿部恭平委員」

○阿部委員 私のほうからは、7点質疑させていただきます。

まず、1点目が40ページ、41ページ、2款1項2目職員研修費であります。こちら、まず、来年度の実施予定人数と内容のほうをお聞かせいただければと思います。

2点目でございます。42ページ、43ページ、2款1項5目企画費の中の総合戦略推進事業の中でございます。移住定住対策として、地元回帰推進住宅の調査を行うということは、私も非常によいことかと思っております。それに対しまして、この総合戦略推進事業費の中で、職、いわゆる仕事、雇用に対する調査は、行うのか、行わないのかお聞かせいただければと思います。

次が3点目でございます。2款1項5目企画費の総合戦略推進事業費、総務費なのか、商工費に関わってくるかもしれないんですけ

れども、第8次総合計画の策定を受けまして、若者の雇用、職、特にUターン型の支援について、来年度の予算に関してはどのようなものがこの中、今回入っているのかをお聞きしたいです。

転職、就職への支援あるいは企業の情報取得に関する支援などはあるのか。あるいは検討したのか、そこをお聞かせいただければと思います。

4点目でございます。58ページ、59ページ、3款1項1目社会福祉総務費の自動車借り上げ料、いわゆる福祉バス運行に関わることなんでしょうけれども、こちらの自動車借り上げ、バスの社会福祉協議会さんのほうで使用するバスの借り上げ、リースと聞いておりますけれども、こちらは何年間借りて、そのうち幾ら費用を見込んでいるのかをお聞かせください。

次が5点目でございます。64ページから67ページにかけての3款2項1目児童福祉総務費の中の恐らく印刷製本費だとは思いますが、子育てガイドブックについてでございます。こちら、私中身見せていただいたんですけども、大変よい内容でして、すごい今後の子育てに関することで参考になる資料だと思っていまして、こちらの令和3年度の発行部数と、どこに配布されるのかお聞きしたいです。

6点目でございます。72ページ、75ページ、4款1項3目環境衛生費の、こちら印刷製本費になると思うんですけども、家庭ごみの分け方、出し方ハンドブックの作成についてでございます。こちらの中身なんですけれども、今後の環境対策、考えてになるんですが、こちらのハンドブックのほうにリサイクルについての記載がされるのか。私的にはしたほうが良いなと思っているんですけども、そういったリサイクルに関する記載はされるのか。

併せて、なるべくごみを出さないという考え方ももちろん大事だと思いますので、レジ袋を使わないようにする。レジ袋という、もちろんその種類にもよりますけれども、マイバッグの推奨とか、そういった内容もこちらのハンドブックのほうには盛り込まれるのかどうかお聞きします。

最後、7点目でございます。72ページ、75ページ、4款1項3目、同じく環境衛生費のごみ収集所整備事業費補助に関してでございます。こちらは、今質疑させていただきました家庭ごみの分け方、出し方ハンドブックの作成、中身ですね。出し方ハンドブックの中身との連携、連動は行うのか。

例えばハンドブックでこういうふうな推奨するので、ごみ収集所はこういうふう補助していただきたいな、そういう連動があるのかどうかをお聞きします。

以上、7件です。

○東海林委員長 「後藤総務課長兼新庁舎建設課長」

○後藤総務課長兼新庁舎建設課長 2款1項2目の職員研修費についてでありますけれども、研修の人数というふうなことでありますが、内容につきましては、職員の人事異動によります専門研修等もありますし、あとは昇任、昇格による上級、中級といった研修もありますので、確定した数字ではなかなか申し上げることができませんので、内部の研修を含めた今年度の予定受講者としては、237名というふうな人数がありますので、大体それに近い数字かなというふうには考えております。

○東海林委員長 「宇野政策推進課長」

○宇野政策推進課長 2款1項5目総合戦略費の中でありますけれども、仕事に際する調査費、こういったものはあるのかというご質問ですけれども、令和3年度の予算の中にはそういった調査費用の費用は入ってございません。

もう一つ、若者雇用Uターンに対する情報取得とかというところでもございますけれども、現在具体的な情報取得サイトを設けるとか、そういった予算はこの中にはないのでありますけれども、我々移住定住の相談会に行く場合は、ハローワークなどに出している求人情報などをお持ちして、相談会に臨んでいるというところがございます。

また、若者に対する助成ということでは、商工観光課になりますけれども、新規学卒者の奨励金ですとか、あるいは具体的に山形ワークスペースイン東京ということで、地元の企業をお連れになって東京都内で面談会などの開催というものがございます。

○東海林委員長 「堀米健康福祉課長」

○堀米健康福祉課長 59ページの3款1項1目社会福祉総務費の中の自動車借り上げ料でございますが、265万5,000円、これにつきましては、一応5年間のリースを1年分ということでございます。5年間となりますと、1,327万5,000円ほどになるところでございます。

リースにしたということですが、やはり高額なバスでございますので、どうしても一気に買うとなるとなかなか財源的に厳しいところがあるということで、一応リースというふうにさせていただいたところがございます。

先ほどの子育てガイドブックということでのお尋ねだと思いますが、その印刷製本につきましては、69ページです。3款2項4目になりますか、総合子育て支援センター費の中の印刷製本費ということで17万9,000円を考えております。

この子育てガイドブックにつきましては、250部を一応考えているところがございます。

今回子育て支援関係につきましては、大分令和3年度新たな事業たくさん入っております。そういったものを盛り込みながら、いろ

いろなところにPRさせていただきたいというふうに思っております。

まずは、母子手帳等で交付の受付に来られた方々に対してはこういった事業ありますよというふうな、まずはPRさせていただきたいというふうに思っていますし、それぞれ各支援センター、どんがホールも含めて、お子さんと親御さんが来て遊んでいただくような場所、そういったものにも配置させていただきたいというふうに思っているところがございます。

○東海林委員長 「秋場環境防災課長」

○秋場環境防災課長 72ページからの環境衛生費の中で、ページ的には75ページ、環境衛生対策費の中の印刷製本費として、家庭ごみの分け方、出し方のハンドブックの費用を内数でありますが、盛り込んでいるところがございます。

この家庭のごみの分け方、出し方ハンドブックにつきましては、平成22年に作成したものの、クリーンピア共立で作成し、各市町村で構成市町で利用しているものでありますが、やはりプラスチックは燃えるごみなのか、燃えないごみなのかというような、いろいろな問合せの中で、その言葉、アから始まる、ウから始まる言葉のごみの分別の仕方で、分かりやすくしたハンドブックを平成22年以来の更新をするものであります。

そんな中で、今ご質問のリサイクルの記載についてあるのかということではありますが、来年度作成の予定ではありますが、内容についても今検討しているところでもあります。

その中で、リサイクルについても必要なことですので、盛り込む予定で今検討しているところでもあります。

同じページの中で、ごみ収集所整備事業費補助金ではありますが、これにつきましては、各町内会ごとにごみの収集所整備をするとき

に、新設あるいは修繕等も含めてですけれども、最大で5万円の補助を行っている事業でございます。

この収集所の整備につきましては、各区長を通じて要望等を取りまとめているところありますので、このハンドブックについて、全町民に周知するものでもないというふうな判断の下、ハンドブックへの連動ということでは特に考えてはいないところでございます。

○東海林委員長 「9番阿部恭平委員」

○阿部委員 ありがとうございます。

それでは、再度質疑させていただきます。

まず初めに、職員研修費についてでございます。大体令和2年度、前の年度の分のベースに考えて237名程度で、基本的には事務的能力の向上に関する研修が多いのかなというふうに認識はしているんですけども、こういった研修費の中に、前提としまして、前年度からコロナなんかも出ているわけですし、今後職員の皆様に求められる能力というのがより専門的な能力も必要かなと思っているところでございます。例えばデジタルとかに伴う専門的な能力ですとか、今後例えばですけども、ワーケーションとか観光に関する、そういった専門的な知識も今後は必要かなと思っているところでございます。

そういった意味で、この研修費の中には、そういった専門的なセミナー、研修に対する費用が含まれているのか。要は、国とか県とか、あるいは民間企業で企画されているようなセミナー、研修への参加に関する費用なんかは盛り込まれているのかどうか。あるいは、外部からそういった民間の方々を呼ぶような、本町に呼ぶかとかは、どこに呼ぶかというのは分かりませんが、本町で例えば行う場合に、そういった専門的な講師の方を呼ぶような研修費、講師……、そういったような費用が入っているのかどうかお聞きしたい

と思います。

あとは、総合戦略推進事業費の地元、仕事に対する調査はないということだったんですけども、やっぱりこちらは、第8次総合計画のこともございますので、やはり若者回帰型というのももちろん住む、住ということに対して力を入れるというのはもちろん私も分かっているんですけども、それと同時に、例えばどういった仕事が求められているのか。あるいは、本町に所属する事業所の皆さんが実際人材が不足しているのか。あるいはどういった人材が欲しいのか。あるいはもしかしたら人材の募集の仕方が分からない。例えば、ハローワークに募集を出す方法しか分からない。あるいは、別な募集に対する支援が欲しいのか。そういった調査が必要かなと思います。

こちらは、意見になりますけれども、そういった職、仕事に対する調査も必要ではないかと私のほうから意見として申し上げさせていただきます。

若者の雇用、職に対すること、支援に対することでございますけれども、こちらやはり第8次総合計画の策定を受けて、やはり期待されている方もいらっしゃると思います。私自身もそうですけれども、期待しているところでございます。

やっぱりより住だけではなく、職に対する支援なんかもより見えるように、来年度予算については、ちょっと私のほうではあまりそういうのが感じられませんでしたので、そういったところもまずは調査からということで、検討していただければと思います。

続きまして、福祉バス、自動車借り上げ料についてでございますけれども、5年間リースで1,327万5,000円ということでしたけれども、まず、5年以降は、5年間リースした後はどうなるのかということと、あと、このバ

スを例えば購入した場合は幾ら費用がかかるのかお聞きしたいと思います。

あと次は、子育てガイドブックについてでございますけれども、印刷製本費ということで17万9,000円ということだったんですけれども、中身自体、やっぱりすごくいいものですし、どちらかと言えば既に結婚された方あるいは既に母子手帳を頂いた方に主なメイン配布先になっていると思うんですけれども、例えば私みたいな、まだ結婚してなくて、今後結婚したいとか、子供が欲しいなという人にも情報が伝わるように、今すぐそういった方々が利用するというふうにはもちろんならないと思うんですけれども、そういった方々の頭の片隅にそういった情報があれば、少し結婚とか子育てに対する後押しになるのではないかと思います。増刷がいいのかどうか分かりません。あるいは、配布場所を変えるのかどうかはちょっと分かりませんが、そういった増刷あるいは配布場所の検討あるいは直接配布になるか分かりませんが、そういったこともいいのではないかなど。私のほうから、これは意見として申し上げさせていただきます。

あとは、最後、ハンドブックと家庭のごみの出し方ハンドブックの作成とごみ収集所整備事業費補助、どちらにも関わることなんですけれども、やはりごみ収集所整備事業費補助でなおかつ、ごみの家庭ごみのハンドブックを出すのであれば、今後リサイクルのほうもハンドブックのほうには記載されるということでしたので、例えばペットボトル専用の集積、ごみを出しやすいような、そういうふうな集積所の整備に使っていただくとか、そういったのを併せてしていただいたほうが効果的なのかなと思います。

こちらにも意見でございます。検討していただければと思います。

以上です。

○東海林委員長 「後藤総務課長兼新庁舎建設課長」

○後藤総務課長兼新庁舎建設課長 2款1項5目の職員研修費の中でありましてけれども、今委員が言われたデジタルワーケーションが専門的というか、今日的といいますか、そういったものであると思いますけれども、講師の方を招聘して庁舎内で座学により、そういったものを聞くというふうな予算としては、盛り込まれておりません。

そういった先進的なものを受けたいというふうな職員については、また違った方法でこちらから出かけて聞くというふうな予算は持っているところであります。

○東海林委員長 「宇野政策推進課長」

○宇野政策推進課長 2款1項5目、職あるいは若者Uターン、こういったものに関することでございますけれども、義務教育、小中学校の中では町のこと、企業のこといろいろなカリキュラムの中でされているかと思っておりますけれども、1つ、同じ43ページに、西村山地域広域連携需要調査支援事業、西村山1市4町で広域的なというところで連携している事業の中で、ふるさとを語れるようになるプロジェクトということで、各市町さんの農業であったり、企業、これらをパンフレットあたりにして、高校のほうに配らせて、学習する機会をつくっているというところがあります。

こちらも来年度も継続してまいるということでありますので、こういったところも高校生、特にこれから就職しようというところの方の情報提供にはなるのかなと思ってございます。

また、職の情報収集ですよね。こういったところは、一般質問の中でもありましたマイナビさんとかあろうかと思っておりますけれども、比較的費用のかかるところもございます。

こういったところではなくて、例えば県と一緒に進めています移住支援、100万円の支援金が出るというもの、これが県のマッチング事業者の中にも登録することができるわけでございます。こういったところの紹介も必要かなと。

あと逆に、出ていった方へのターゲットが個別のターゲットがなかなか絞りにくいというところが1つあるかと思えます。そういった点については、町単独ではなくて、比較的広域的な連携の中でこういったものの情報発信を進められれば、より効果的かなというような考えを持ってございます。以上でございます。

○東海林委員長 「堀米健康福祉課長」

○堀米健康福祉課長 自動車借り上げということで、福祉バスのリースでございますが、一応5年間リースということで、その以降につきましては、町の所有になりますので、町でその後も使うということでございます。

現在の福祉バスにつきましては、もう21年ほど経過して、かなりの距離数になっているところでございます。21年間は使えるのかなというふうに思っているところでございます。

一括して購入した場合は、1,000万円を超える金額になります。200万円以上の差はあるところではございますが、財源的な関係で、リースとさせていただきますところでございます。

子育てガイドブックにつきましては、ホームページにも現在アップさせていただいております。電子ブックという形で、本の形式での見やすいようなホームページにさせていただいているところです。

今後ともいろいろな場所を考えながら、PRさせていただきたいというふうに思っております。

○東海林委員長 「秋場環境防災課長」

○秋場環境防災課長 委員から意見ということでありましたけれども、ハンドブックの作成につきましては、いろいろな問合せがあります。そういったことを踏まえ、問合せの多い内容なども盛り込みながら、分かりやすいハンドブックにしていきたいと思っております。

なお、先ほどリサイクルの記載ということですが、よく質問等がありますのは、テレビ、洗濯機、冷蔵庫等の家電製品でありますけれども、クリーンピア共立では受け入れていません。どこに持っていくのかというようなことがよく問合せであるところでございます。小売業者に依頼する方法が1つ、もう一つは、自己搬入という1つあります。自己搬入する場合は、郵便局でいわゆるリサイクル券という費用を購入していただいて、それを県内に数か所あるんですが、河北町から一番近いところで、山形市に日通、日本通運株式会社が1か所でございますので、そこに自己搬入ということになるかと思えます。

そういった内容も盛り込みながら、分かりやすく、問合せのあるようなものを作りたいと考えております。

○東海林委員長 「佐藤商工観光課長」

○佐藤商工観光課長 先ほどのIターン、Uターンでの就職支援ということでございますけれども、先ほど政策推進課長からありましたように、例年ですと山形ワークスペースイン東京というふうなことで、東京のほうに町の職員とあと企業の採用者の方が東京のほうに行って就職説明会を行っておりました。

ただ、今年につきましては、コロナ禍というふうなことで、そういったものもできないというふうなことで、本年度は新たにウエブによる就職説明会というふうなことを開催しております。

今年度卒業予定の学生またはUターン希望の方を中心に行っておりますので、こういっ

たことにつきましても、今後町のほうの企業と一緒にしながら、積極的に参加していきたいというふうに考えております。

○東海林委員長 「9番阿部恭平委員」

○阿部委員 ありがとうございます。

職員研修費に関しましては、やはり今後皆さん、職員の皆様、執行部の皆さんもそうですけれども、やっぱり業務をしつつになりますので、そういったセミナー、研修を受けやすい体制を整えるという意味でも、そこは十分に検討していただければと思います。

あとは、総合戦略推進事業についての仕事についてでございますけれども、こちらも本町は本町として調査なども検討していただいて、プラス7市7町の中核都市連携、ここにも負担金もいろいろな形で出している負担金でしたっけで出しているわけですし、そういった意味でも、連携して、そういったものには取り組んでいただければと思います。

あとは最後、福祉バス、自動車借り上げ料ではございますけれども、5年間お借りすれば町の所有になるということでしたので、そこはよいのかなと思います。あと20年使うということでしたけれども、そこはいろいろ分かりませんが、そこもうまく使っていただければと思います。

あと、子育てガイドブックについては分かりました。ぜひよろしく願いいたします。

あとは、環境衛生費についてでございますけれども、ハンドブック、ごみ収集所の件も分かりました。

私のほうからは、以上でございます。ありがとうございました。

○東海林委員長 以上で9番阿部恭平委員の質疑を終わります。

次に、「10番松田收作委員」

○松田委員 それでは、5項目ほど質疑したいと思っておりますけれども、前の方々が随分

あれしているんで、私からは2点ほどきちんとした答えをいただきたいと思います。

61ページの3款1項4目老人クラブ活動助成金、これ随分補助費も減っておりますけれども、随分会員も減っているというあれを聞いております。今現況でどの程度会員が減っているのか、そのことをまずはお伺いしたいと思います。

第2点、77ページ、4款1項5目健康増進のことです。河北病院人間ドック等もあれして、1日コースで2万円、2日コースで5万円というあれですけれども、このまずは、どの程度調べてもらうにあるのか。

それから、河北病院の人間ドックと町があれしている西村山の人間ドック、あそこの違い等々もちょっとお伺いしたいと思います。

それから、これは、質疑の中ですけれども、意見としてちょっとお話しておきたいと思うんですけれども、46ページ、2款1項8目ドローンの件です。これ、1週間ほど前ですけれども、私自身一緒にしたんですけれども、土地改良区のほうでしたドローン、これからドローンで調べに行くというふうなことに立ち会ったものですからですけれども、地名で言えば岩砂橋から引竜ため池をドローンで、あそこは約1.2キロあるんですけれども、雪で行けないところをずっとしていったのを立会いして見せていただいて、大変これは町のためにもいいことだしということで、もちろんこれの運転する方々の訓練もあれですけれども、大いに広めていただきたいということもちょっと意見として述べさせていただきたいと思います。

まず、今の老人クラブの件、それから、人間ドックの件、このことをまずお伺いしたいと思います。

○東海林委員長 すみません。松田委員に申し上げますが、2件目の質疑で、人間ドックの質

疑の内容、再度ご質疑していただけますか。ちょっと詳細がちょっと私把握できなかったもので、よろしくをお願いします。

○松田委員 1日コースで2万円、2日かけて5万円というようなことがありますけれども、どれほどこの間で違うのかということと、それから、西村山の健康センター、あそこで寒河江でやっているあれとの違い、そのことをまず、両方ともお聞きしたいと思います。

○東海林委員長 「堀米健康福祉課長」

○堀米健康福祉課長 人間ドックの中身について説明させていただければと思っております。

河北病院の人間ドック、今年度から実施されたわけですが、それに対して一部助成したいというように考えているところでございます。

これは、人間ドック委託料という形で実施させていただくわけですが、本人負担での額を助成、例えば1日コース4万4,510円という形で女性の場合となっております。男性は5万円ほどですが、それに対して2万円の助成をさせていただきたいと。よって、その差額分を委託料で町が河北病院へ払うということでの委託料になっているところでございます。

2日コースにつきましては、女性12万7,780円、男性が11万7,240円ということで、これについては、2日コースについては5万円の男女とも同じように助成すると。その差額分について、委託料を町が河北病院に払うと、そんな状況でございます。

大体事業費の半分程度というようには見させていただいたところでございます。

それで、これまでやっている1日人間ドック等ではございますが、これはそれぞれ加入されている保険者によって、保険によって違うところではございますが、社会保険に加入されている方については、男性は今のところ

1万5,000円、女性については2万円というようになっていますので、自己負担です。若干河北病院のほうは若干高いだろうということではございます。

ただし、一般質問の中でもちょっと説明させていただいたんですが、この成人病検査センターで実施されている検査に加えて、特定の大腸CTとか、そういったものもあるということではございますので、そういった中で選択肢になるのかなというふうに思っているところでございます。

あと、老人クラブではございますが、確かに毎年減ってきております。今回予算計上させていただいているクラブ数につきましては、20クラブの会員が1,365人というふうに考えております。

前年度として31クラブの1,569人ですので、クラブ数としては2クラブの減、人数としては200人ぐらいは減ってきている状況だと、そんな状況でございます。

○東海林委員長 「10番松田収作委員」

○松田委員 この前お聞きしていたあたりで、お金のことについては、大体そんな、私が聞きたいのは、中身がどれほど違うのかということをお聞きしたい。まず。

それと、これもですけども、西村山の検査センターでやっている……

○東海林委員長 松田委員、マイク近づけていただけますか。

○松田委員 西村山健康センターでやっている、あそこの違いもどのように違うのかなという、その違いをちょっと、中身といいますかね、そこをお聞きしたいと思います。

○東海林委員長 「堀米健康福祉課長」

○堀米健康福祉課長 人間ドックの河北病院でございますが、1日コースと2日コース、一泊コースというのは呼ばないで、2日コースと言っているそうです。泊まる場所は、近隣の

例えば宿泊施設でもいいし、自宅から通ってもいいということで、1泊でなくて2日コースというように河北病院では言っているということで、1日コース、2日コースの違いとして、まず、2日コースについては、大腸CT、先ほど申し上げましたように、そういった検査が特徴的なものと、それから、女性検診については、マンモグラフィーも追加されているということでございます。

1日コースにつきましては、西村山の検診にはないものとしては、上部消化管内視鏡検査、胃カメラです。あとそれから、腹部の超音波検査、あと前立腺の検査、そういったものが特徴的なものとして挙げられているところでございます。

○東海林委員長 「10番松田収作委員」

○松田委員 西村山の健康センターとの違いをちょっと。

○東海林委員長 「堀米健康福祉課長」

○堀米健康福祉課長 ですから、先ほど申し上げたのが病院のもの、そのほかは同じだというふうに考えていただければと思います。

○東海林委員長 「10番松田収作委員」

○松田委員 人間ドックに関しましては、今本当に寒河江市立病院と何かいろいろなあれで行っているようなので、もっともっと繁茂に町内の人あるいは町外の人などにもおいでいただくような施策を考えていただきたいなど。それが1点。

それから、もう1点ですけれども、先ほど老人クラブのあれについては、あまりなかったですけれども、老人クラブどうしてこう減っているのかという、その中身的なあれは考えられていますか。原因とか、そういう。

○東海林委員長 「堀米健康福祉課長」

○堀米健康福祉課長 老人クラブに限らず、婦人会さんとかいろいろあると思うんですけれども、会員数が減ってきているという状況は

あるというのは聞いております。

そういった中で、なぜかということなんです、これについては、本当に松田委員には毎年申し上げているのかなというふうには思っているんですが、やはり役員になりたくないという方もおりますし、まだ私は老人クラブではないという意識で、まだまだ働ける。65歳以上の方もどンドンと働く時代になってきていると。生産人口が減ってきている中で、どうしても社会保険関係のこともございますので、できるだけ働いて社会を促すといいですか、そういった状況にはあるのかなというふうに思っております。

そういったことで、シルバー人材センターの会員数は増えているところではございますが、老人クラブの会員数は逆に減ってきているのかなというふうなことでございます。

役員、それぞれ地区で町の老人クラブに参加しなくても、それぞれ老人クラブをそれぞれの地区でやっているというところもあるようでございます。

そういった形態は、婦人会の中にもあるというふうには聞いていますけれども、そういった状況の中で、少しずつ減ってきているのかなと。そんな感じであります。

○東海林委員長 「10番松田収作委員」

○松田委員 大体现状としてはそんなところだと思いますよ。

ただし、今日本的にですけれども、こういう災害とか、こういういろいろな大変なことが起きていまして、その中で、日本的にも今公助、自助、共助、公助というあれが求められる時代です。

そういうところの取組というか、それが不足しているのではないかというような気がするんです。

もちろん、ただいまのところでもクラブは減っています、あれしていますけれども、維

持していますけれども、人がそれに関わる熱意というか、それが薄くなっている。過去に昨年、一昨年あたりは、河北町の議会の中でもお互いさまということをどれほど大事にしなければならぬかというようなことが取り上げられたこともございます。

いわゆる日本の中ですらさえも、全部で何とかして自助、共助、公助の精神を高めていこうというような矢先に、どうしてそのあれが例えば河北町の場合は、老人クラブも婦人会も本当に減っていますけれども、この辺の教育というか、そういうことについては、全然まだ考えられたことがなかったのかどうかということをちょっとお伺いしたいと思えます。

○東海林委員長 「堀米健康福祉課長」

○堀米健康福祉課長 老人クラブさんの諸先輩方に対しての教育というのは、なかなか難しいところではございますけれども、我々としては、いろいろな補助事業を活用しながら、老人クラブの高齢者に対する補助事業、そういったものもさせていただきながら、できるだけ活発に動いていただきたい。会員も増加していただきたい。そういった思いを込めながら、補助金を出させていただいているところではございます。

いろいろな形で老人クラブの活動については、PRはさせていただいているところですが、やはりそれぞれ地区の意識というのが一番大事なのではないかなというふうに思っております。

なかなか行政のほうでそういった会員数を増やすということはなかなか難しいところがあるというふうには思っております。

資金的な支援は今後とも続けさせていただきたいというふうには思っております。

○東海林委員長 「10番松田収作委員」

○松田委員 資金的なお金的には、そのようなこ

とは、大体私もあれしていますけれども、これ教育のほうではそういう教育というか、あれがなされているのかなという気がするんですけども、その辺生涯学習課とか、そっちのほうでのあれは考えられないのか。今のところそのあれっていうのはまだ見えませんけれども……

○東海林委員長 松田委員に申し上げますが、今回予算特別審査委員会ですので、予算に関係する質疑だけよろしくお願いします。

○松田委員 これ予算の関係の中だと思うんです。もちろん、だから私はそういう質問……。心ですね。その教育のほうのあれはしてもらえないのかどうかという、ちょっと不満というか、そういうあれがあるものだから、こうして話しているところですけども、どうなんですか。

○東海林委員長 「森谷町長」

○森谷町長 非常に今日的な、今後のまちづくりということを考える上でのご指摘の点というのは、非常に大事なポイントなんだというふうに思っています。

老人クラブだけでなく、婦人会もそうですし、本当に関係者の方々ご苦労なさっていることも伺っております。

一方、やはりその中で私考えておりますのは、やっぱりそういった健康づくりであるとか、あるいは助け合いであるとか、やっぱりそういった切り口でコミュニティーというものは大事にしていかなきゃならない。

そして、そのコミュニティー活動を支えていくのは、若い方々の会であったり、女性、婦人会、老人会、あと青年会、青年団の方々も非常に会員不足で苦労なさっています。頑張っている中で、そういった中で、本当にこれは一老人クラブの問題だと私思っております。

多分松田委員も同じ認識の下なんだと思

ます。

その中でも、私大事だと思っているのは、やはりいかにやっぱりコミュニティというものが大事なのかというところ、やっぱりそれは残念ながら、精神論で訴えていっても、なかなか限界があるのではないかと。とりわけ、行政的に精神論で言うというのは、本当にやっぱり地域で動いている姿を、助け合い姿を見ながら、やっぱりこういう活動って大事だね。それを支えているのはこういう個人個人の熱意だったり、そして、組織だったり、そして、バトンタッチしていく人たちも入ってくる。そういったものが大事なんだねということをやっぱり教えるというか、教育というよりも、やっぱり学んでいく。地域から学んでいくことだと思っています。

それは、そういう意味で、何が大事なのかと、私も答え分かりませんが、私が就任以来あるいは就任以前としてもこの町で暮らしている中で、いろいろな活動に関わったり、あるいは頑張っていって活動を見せていただいたりしておりますけれども、やっぱり基本は昔に戻る。昔の青年団に戻る。昔の老人クラブに戻るといったら、なかなか価値観も多様化しています。やっぱりもう周りの方々だけでなく、もっと一足飛びに飛んで、全国の方々とネットワークを組んで、そこで活動するような方もあります。

そういった中で、地域コミュニティということを考えていった場合に、やはり何で入ってこないのやと、何で交ざられないのやということよりも、むしろ一緒にできる、その前提としては、やっぱり多様性を認めていくということだと思うんです。いろいろな考えの方がいらっしゃるわけです。その一人一人のいろいろな考え方というものを受け入れながら、その上に立って、ある意味で言うと緩やかな連携ということもあるでしょうし、あ

るいは地域を越えた形であるでしょう。広域的なものもあると思います。

本当に、特効薬はないと思います。

そういう中で、ただ、やはり私思うのは、これまでもいろいろ出ている、雪の問題であったり、災害のときの避難の問題であったり、声かけの問題であったり、いじめの問題であったり、やっぱりそういった中で、個人個人を大切に思い、そして、多様な考え方があるんだということを認め合いながら、つながっていく。そういった活動、非常に飛躍している、全然答えにならないことを私申し上げているかもしれませんが、これからのコミュニティというものを考えていく上で、あるいはいろいろな活動を今後とも持続的にどういった形で将来の組織づくりというものを考えていくのか。本当に関係者の方々から悩んでいる中で感じていることでございます。

なかなか直接的な答弁というのは、今だからこういう経費でということは予算的にもないわけですが、1つの切り口としては、さっきの除雪の共同体づくりだったり、あるいは避難のときの活用だったり、そういったところで、まず切り口にしながら、やっぱり多様な考え方あるけれども、やっぱり地域での助け合いの姿というのは大事にしていかなきゃならないね。新たに河北町に来る人にとっても、大事であるねと言ってもらうようなまちづくり、それが協働のまちづくりかなというふうに思っております。

○東海林委員長 「10番松田収作委員」

○松田委員 大変常々思っていることを今まさに町長からその話を承り、今後とも私たち、いわゆる心のつながり、最後に言った、それを大事にして、今後とも河北町の町民の方々にも、そしてまた、国民的に今まさに災害で10年前の災害で大変言われている、こういうつながりがなくなったらもう、社会の壊滅につ

ながるんじゃないかというような心配をして、そんなことを。

大変どうもありがとうございました。以上で私の終わります。

○東海林委員長 以上で10番松田収作委員の質疑を終わります。

次に、「12番佐藤修二委員」

○佐藤委員 それではまず、37ページ、一般管理費からお尋ねいたします。

町として当然障がい者の法定雇用率というのがあって、その義務があると思うのでありますが、現在令和3年度の雇用に当たって、どういう数字になっていらっしゃるのか。当然この数字は、超えているものと、こういうふうにするのでありますが、どのようになっているかお尋ねします。

ところで、委員長にお願いしたいんですが、この法定雇用率については、町の町長部局と教育委員会部局とに分かれて、率も違いますので、一緒にここで質疑させていただきたいんですけれども、よろしいですか。

○東海林委員長 はい。

○佐藤委員 では、教育委員会についても町のほうの地方公共団体よりもちょっと低い数字の雇用率になっています。

ただ、対象となるのが43.5人以下と、そういうふうになっていますから、教育委員会部局が43人を超えていなければ、これ義務はないわけでありまして、義務がないからって雇わなくてもいいというものではないので、現在どのような状況になっているのか。ゼロなのか、それともちょっと少し雇っていらっしゃるのかについてお尋ねします。

2点目は、先ほどからいろいろ質疑あります自動車借上げとか、福祉バスについて、私の認識が古くて間違っていたのかどうかと思うんですが、先ほどから質疑も答えもリース、リースと、福祉バスについては5年間の

リースと、こういうふうにお答えになっていきますけれども、私の認識だとリース契約を結ぶということは、何年間幾ら払うというのを約束するということですので、それは債務負担行為をしなければならないと、そういうふうに私は前そういう認識していたんですが、その債務負担行為は必要でなくなったんですか。時代が変わっちゃのかな。そこについての見解をお願いします。

次、61ページ、61ページにあります老人世帯の雪下ろしについてであります。

これまで独り暮らしと、こういうふうになっていたんですが、たしか常任委員会的时候になぜ独り暮らしなのかと、2人暮らしでも雪下ろしは大変なんじゃないかなと言った経過あるんですが、これはまだ独り暮らしになっているのか。それとも2人、高齢お二人暮らしでも適用になるというふうになったのか。その点について。

以上、3点お願いいたします。

○東海林委員長 委員長から申し上げます。ただいま12番佐藤修二委員の質疑の途中ですが、昼食のため午後1時まで休憩といたします。

休 憩 午前11時50分

再 開 午後 1時00分

○東海林委員長 休憩を解いて予算審議を再開します。

12番佐藤修二委員の質疑を続けます。

○東海林委員長 「後藤総務課長兼新庁舎建設課長」

○後藤総務課長兼新庁舎建設課長 2款1項1目一般管理費の中で障がい者雇用の状況というようなことでありますけれども、今から申し上げる数字は、役場と教育委員会と一緒に数字というふうなことでご理解いただきたいというふうに思います。

雇用率というふうなことでは、数字上は3.45%というふうなことになっておりまして、

法定雇用率2.6%を満たしているというふうなことになってございます。

○東海林委員長 「堀米健康福祉課長」

○堀米健康福祉課長 59ページの3款1項1目自動車借り上げ料でございますが、これにつきましては、現在は債務負担行為ではなくて、長期継続契約ということで、平成17年度から地方自治法施行令の改正の下に実施させていただいております。

条例にも契約できるものということで掲示されているところでございますが、商慣習上、複数年にわたり契約を締結することが一般的であると認められる契約ということで、一般的にはリースということでございます。

ただ、この契約期間につきましては、5年以内というふうに定められているものでございます。

続きまして、61ページの3款1項4目の高齢者の雪下ろし事業ということでございますが、これの実施要綱につきましては、対象者、町民税非課税世帯の方で70歳以上の高齢者世帯、それから、身体障害者手帳1級または2級所持者のみの世帯、それから、70歳以上の高齢者と身体障害者手帳1級及び2級所持者のみの世帯ということで、これの要綱はずっと変わっていないところでございます。

ただ、一般的に高齢者の雪下ろし事業の中で、多分高齢者の独り暮らし等の世帯などというように、多分表現されているので、独り暮らしだけの世帯というふうにちょっと誤解されていたところもあったのかなというふうに思っております。

実施要綱については、70歳以上の高齢者世帯ということになっておりますので、そういったことで実施させていただいております。

○東海林委員長 「12番佐藤修二委員」

○佐藤委員 まず、第1点からです。3.45ですか。雇用率が。2.6を上回って、満たしてはおり

ます。

ところで、そこでお尋ねしたいんですが、障がい者には身体障がい、知的障がい、それから精神障がいというふうに分類されるわけですが、身体障がいの人が何%で知的何%で、精神障がい何%の人を雇っておりますか。細かく聞きますが。

次に、借り上げのことについてであります。先ほどから質疑と答えと質疑の間にリース、リースという言葉がどんどん出ていましたので、私わざわざ聞いたんですが、やっぱりきちんと長期継続契約という言葉がやっぱり一番正しい答えだと思えます。長期継続契約は、リース組まなくてもいいとなっています。これは、随分前からこの言葉でリースに代わる行政としては、長期継続契約を結ぶと、こういうふうになっているので、ぜひ安易なリースという言葉を使わずに、きちんと長期継続契約という言葉で議事録に残していただきたいというふうに存じます。

それから、雪下ろしについては、委員会ときに説明私受けたときに、独り暮らしと書いてあったんですね。何で独り暮らしなのというふうに質疑したことから始まるんですが、今の課長のお答えですと、別に独り暮らしにこだわっていないようであります。高齢者の2人暮らしであろうとも、非課税世帯であれば対象になるという理解でよろしいのでしょうか。そこだけもう一回、もう一遍確認したいと思います。

○東海林委員長 「後藤総務課長兼新庁舎建設課長」

○後藤総務課長兼新庁舎建設課長 障がい者の雇用に関してでありますけれども、パーセンテージではちょっと分かりづらいと思えますので、人数というふうなことで状況のほうをご説明いたしますと、身体障害者手帳をお持ちの方が5人、精神障害者保健福祉手帳をお持ち

ちの方が3人というふうになってございます。

○東海林委員長 「堀米健康福祉課長」

○堀米健康福祉課長 70歳以上の高齢者世帯ということで、これは独り暮らしであろうと、2人暮らしであろうと、これは該当になりますので、多分前に委員会の中で決算の成果に関する調書の中に多分独り暮らしと高齢者などの世帯という、誤った記載がなっていたのかなということだと思っております。

あくまでもこれは70歳以上の高齢者世帯ですので、独りであろうと2人であろうと該当になりますので、そんな状況です。よろしくお願ひします。

○東海林委員長 「12番佐藤修二委員」

○佐藤委員 まずは、高齢者の雪下ろしについては分かりました。

そういう形でお願ひしたいと思ひます。

ところで、障がい者雇用率であります、いろいろな書類見ますと、障がい者に関係なく希望や能力に応じて誰でもが職業を通じた社会参加できる共生社会の理念の基、全ての事業主には雇用率ということで、やっぱり身体障がいの人もあるし、知的障がいの人もあるし、精神障がいの人もあるし、その人たちが持っているものをできるだけ生かしてやると。職場というか、働く場所をつくってほしいという理念の下にこういうものができていると思ひます。

身体だけでなく、いろいろ雇ってくださっているようですから、まあまあかなと思ひますが、ところで、資料の中でこのように書いてあるんです。障がい者の雇用の促進と継続を図るため、(障害者雇用推進者)を選任するよう努めなければなりませんと、こういうふうに書いてあるんですが、我が町はそういう推進者というのを選定になっておりますか。

○東海林委員長 「後藤総務課長兼新庁舎建設課長」

○後藤総務課長兼新庁舎建設課長 そういった形で選任しているものは今のところないと考えております。

○東海林委員長 「12番佐藤修二委員」

○佐藤委員 ぜひ選任していただいて、より我が町、福祉の町でありますので、全県的にもより高い数字で雇用できるようにしていただきたいと思うのであります、ところで、その精神障がいや知的障がいを持っている人たちがどんな能力を持って、どんな場面でこの人たちが雇用できるだろうというふうなところが非常に難しいのであります、そのための現場実習というのがあります。

村山にあります学校あるわけですが、そこにも河北町から何人か行っているかと思うんですが、そういう人を役場の中で、役場の中のどんな作業ができるだろうか。例えば、中央公園あたりのいろいろなことができるのか、あるいはどこかでまた別なこういうことができるのかという、そういう人たちの能力を見るため、現場実習という制度があります。

そういうのは、我が町でやったことございますか。

○東海林委員長 「後藤総務課長兼新庁舎建設課長」

○後藤総務課長兼新庁舎建設課長 現場実習というふうなお話であります、これは学校の依頼に基づいたというふうなことにはなっておりますけれども、特別支援学校のほうから実習させてくださいというふうなことから、清掃作業のほうに就いていただいてやっていただいたというふうなことが今年度ございました。

○東海林委員長 「12番佐藤修二委員」

○佐藤委員 やっぱりそういう障がいを持っている人、一人一人また能力違う。いろいろな持っている人がおります。

特に、精神障がいなんかの自閉症の子供さ

んなんかは、ある面はすばらしく進んでいるし、高い能力を持っている人もおります。でも、ある面はあまり得意でなかったり、そういう極端な人がいるので、そういう持っている能力をいかに引き出して社会参加してもらうか。就労の場をつくってあげるかというようなことが私は共生社会といえますか、そこで最も大事なことじゃないかと。

町長の施政方針や提案理由にも誰でもが誰にでも優しい町、河北町と、こういうふうなことを挙げているわけですから、知的障がいの方にも精神障がいの方にもやっぱりそういう場を極力探してあげられるような実習もやっていらっしゃるようですが、いろいろな機会を通じて、ぜひその人たちの能力を生かして雇用に努めていただきたいということを申し上げて、質疑は終わります。

○東海林委員長 「後藤総務課長兼新庁舎建設課長」

○後藤総務課長兼新庁舎建設課長 ただいまの実習について申し上げましたけれども、正確に申しますと、障がい者というふうなことではなくて、特別支援学校からというふうなことで受けたものでありますので、補足といえますか、ご説明させていただきたいと思います。

○東海林委員長 以上で12番佐藤修二委員の質疑を終わります。

以上で1款から4款までの質疑を終結します。

次に、5款から8款までの質疑の通告を求めます。

(1番、3番、4番、5番、6番、8番、10番、12番、14番の通告あり)

1番、3番、4番、5番、6番、8番、10番、12番、14番。落ちありませんか。

(「なし」の声あり)

それでは、「4番木村章一委員」

○木村委員 最初は、80ページ、6款1項3目紅

花栽培関連業務委託であります。新しくできた大型店舗、ヤマザワの東側の水田、令和2年度よりそこで紅花を栽培しているということで、これは昨年度の予算審査では、いろいろと経済的な側面も含めて検証するという側面を持っているというふうに記憶しておりますけれども、令和2年度のそういった実績はどうだったかということです。

それから、令和3年度は同じ場所、それに場所も増やしてということで栽培するというものですが、あえて連作をするという狙いといえますか、お聞きしておきたいと思います。

82ページ、6款1項3目サクランボ安定生産対策事業費補助金85万円ですが、これ蜂のためのヨシの購入支援などなんでしょうか。ちょっと具体的な内容を説明を求めます。

次に、82ページ、6款1項3目サクランボ雨よけハウス整備補助でありますけれども、初めてハウスの更新にも適用できるということですが、どのような要件が整うとハウスの更新にも使えるのか、説明を求めます。

それから、6款1項6目、84ページですかね、管工事、各センターのどこにエアコン設置しようとするのか、説明を求めます。

84ページ、6款1項9目6次産業推進費でありますけれども、なかなか河北町で6次産業というものが具体的に進まないという状況にあります。何回か担当でも取り組んではいるんですが、具体的な形にならない。今回は、特別に海外にも販路を求めるなどというようなこともあるようですが、農商工連携という形では動きもつづけているので、農商工連携の中でのウエートを農業者に置いたような形の進め方とか、それから、特に農家の場合、販売のところがネックになると思うので、農業分野でのニーズ調査といえますか、そういったことなどを農家とともにやるとか、

少し取組方を変えていくということもやったらどうなのかと思うんですが、いかがでしょうか。

88ページ、7款1項1目河北創生牽引地域商社支援事業費でありますけれども、令和2年度も取り組まれてきました。コロナがあって、ご苦労なさったようですが、ここまでに至って、その後従来の予定どおりに進められるのかどうか

令和3年度のこの予算の目標はどこまでなのかということをお聞きしたいと思います。

90ページ、7款1項2目ふるさと納税業務委託ということで、2億5,500万円あまりの事業を業者委託するということですが、委託するメリット、デメリットとしては、町は町職員は異動があるので、担当が替わるからということとは説明ありましたが、委託するメリットとして、どんなことを狙っているのか。メリットは本当にあるのかということについてお聞きしたいと思います。

90ページ、7款1項4目観光協会補助金で紅花資料館館長の人件費をここで増額するというふうにしていますけれども、紅花資料館の館長の人件費を観光協会補助金のほうに入っているというのはなぜなのかなと、ちょっと説明を求めます。

それから、92ページ、7款1項6目紅花資料館費のほうでは、会計年度任用職員の賃金がありますけれども、この方とそれから紅花資料館館長と、それから、町から派遣している職員との役割分担などについて、ちょっと分かりにくいので、説明を求めます。

94ページ、7款1項7目道の駅河北費でありますけれども、在り方の検討を時々聞きますと、地域商社とのことの関係はないんだと。道の駅河北の件は、そこはそこで進めるというふうな説明がよくあるんですが、でも、道の駅の在り方については、地域商工が仕事と

して受けている中での道の駅を含んだ、ワイナリーを入れるかどうかなども含めた運営、その中で、道の駅の在り方が方向づけがなるというようなことで、道の駅河北の在り方は、その地域商社に検討を任せているわけではないと言いながら、その結論を待っているような状況あるんですが、この辺の関連ちょっと解きほぐしていただきたいんですけども、よろしくお願ひしたい。

96ページのどんがホール費、これは指定管理料が1,609万8,000円、前年、前々年と同額になっています。この間消費税率が上がったとか、役場で会計年度任用職員制度に切り替えて、前嘱託職員の待遇改善になったと。その嘱託職員とどんがホールあたりの方々、働いている方々の関係なんかもリンクするところがあるので、私はないかと思っているんですが、そういうふうに大きな要素が変わったので、契約したときの金額そのものをずっと引き続けるのではなくて、大きな変更要素については、見直しをするのが当然ではないかと思うんですが、どういうふうになっているかお聞きしたい。

それから、96ページ、7款1項10目べに花温泉ひなの湯の機械器具費ですが、地下ピットへの浸水対策にエンジンポンプを入れるということですが、エンジンポンプは、エンジンとそのポンプがくっついていて、それが吸い込み口がすぐ水たまっているところがあるので、地下ピットにエンジンを入れなきゃいけないなくなって、排気ガスがそこにたまってしまうのではないかなと。発電機と、それから、水中ポンプを組み合わせた方式したほうがいいのではないかと。

ただ、水中ポンプ、少し大きいので、給水するスペースというか、場所が確保できないなどということがあって、エンジンポンプを選んだのかもしれないんですが、そのためだ

ったら、給水のためのキットを作るとか、そういうふうにするべきではないかと思うんですが、どういうふうを考えているかお聞きしたい。

100ページ、8款2項3目除雪委託料ですが、令和2年度の除雪は、早期に対策本部が設置されたという要素もあるのかどうか分かりませんが、路面を出す道幅の確保と早期排雪はよかったと私思っています。

交差点の見直し確保が残る課題だと思いますけれども、新方式をやるということですが、技術講習会を開くとか、そういったやり方のことについて、ちょっと説明を、どんなことを考えているか、説明を求めたい。

保険などをしっかり、事故あったときなんかの保険ですね、しっかり対応するかどうか。以前除雪中に路面の出っ張りに引っかけてけがをしたとかという事例もありますので、その辺しっかりできるかどうかをお聞きしておきたい。

あと、104ページ、8款4項2目いもこ列車の一般公開は、観光への組み込みなぜ進まないのか、説明を求めます。

それと、最後になります。106ページ、8款5項1目定住促進住宅費で、支出が2,663万4,000円、うち2,000万円が工事費ですね。今工事いろいろやっているということですが、通常ベースで歳入が3,296万3,000円、通常ベースでいくと二千数百万円が残るといような感じになりますが、なかなか町にとって資産価値のあるものです。

これを5階、4階はなかなか使いづらいとありますが、5階までの外づけエレベーターというのを検討したらどうかと。初めて言いますので、今すぐ分かりましたとはならないと思うんですが、階段側、1棟、2棟は踊り場のところにエレベーターから出入口つけて、そこから7段ぐらい上らなければいけない。

3棟は、1段下りて入っていくみたいなことで、外づけエレベーターということができません。そうすると、資産価値、利便性非常に上がると。あと何十年使うか、見極めをつけて、真剣に検討してみたらどうかということ、その辺について考えているかどうかをお聞きしたい。

以上お聞きします。

○東海林委員長 「増川農林振興課長」

○増川農林振興課長併農業委員会事務局長 80ページ、81ページの紅花栽培関連業務委託料についてでありますけれども、令和2年度から行った事業でございます。

令和2年度は、30アールのベニバナの栽培を行いまして、中部小学校の希望ということで、摘み取りなどをしていただきました。

その中で、ベニバナ餅などまで作っていたというので、そのベニバナ染めから紅染め大会なども紅花サークルなどの協力をいただきながらやったというふうなことでございます。

委員からありました経済的な側面というふうなところも考えてはいるんですけれども、令和2年度の事業ということまでは、そこまで至っていないということでございます。

なかなか商業ベースとか経済ベースまで考えるところまではまだそこまで至っていないということでありまして、それらを考えながら、加工から最終的に生産を含めたところまでやっていくということでもありますので、そのことについて、課題ということで、今後ともやっていきたいということで考えております。

次に、82ページ、83ページのサクランボ安定生産対策事業費であります。この事業につきましては、受粉作業でなかなか今地蜂が少なくなっているというふうなことで、蜜蜂の箱があるわけでありましてけれども、その貸出

しにつきましては、1箱1万6,500円ほどかかるというふうなことに対します補助ということで、1箱1,500円で実施をしたいということで、今年度もやっていきたいと思っております。

あとヨシにつきましても、1束2,500円ほどするので、それに対して1,000円ほどの補助というふうなことで考えている事業になります。

どうしても地蜂が昔と比べますと少なくなっているということで、受粉をさせるために蜜蜂、ヨシなどを利用しながら、収穫量を増やすためにサクランボ安定生産に向けた事業というふうなことでなっております。

次に、サクランボ雨よけハウス整備事業ということで、新しい事業になってございます。この事業につきましては、更新も含めて行うわけでありまして、樹園地の中にやまがた紅王の樹木本数が2割以上定植されている樹園地ということで考えてございます。それらに対しまして、3分の1の補助を行うというふうなことで対応させていただきたいということで、10施設ということで10棟などを考えているところの対応の事業になります。

それで、300万円というふうなことで考えてございます。

次に、84ページ、85ページの6次産業推進費であります。グローバル産地づくり事業ということで、令和元年度からイタリア野菜を中心にして6次産業化の取組を行っているというふうなところであります。

令和2年度につきましては、コロナウイルス禍のために、海外のほうに直接行って事業を行うことはできませんでしたが、あちらのほうでもデモンストレーションといいますか、事業を行っていただいて、その報告を受けているというふうなことが現状でございます。

あちらのほうでアンケートなどを行っていたり、実施をしているというふうなところでございます。

その中で、6次産業化の取組というふうなことでございますけれども、令和2年度に河北町のほうの6次産業推進ネットワークという協議会をつくる予定でございましたけれども、これもコロナ禍と、あと7月の豪雨災害などがありまして、その協議会設立まで令和2年度中に至らなかったというふうなことで、令和3年度にはその協議会を立ち上げたいというふうなことでございます。

その中で、農業のほうから見た6次産業化を強めていきたいというふうなことで考えてございます。

委員からありましたように、その中で農業者のほうからのアプローチ、6次産業化へのアプローチなどを強化していきたいというふうに考えてございます。以上です。

○東海林委員長 「佐藤商工観光課長」

○佐藤商工観光課長 初めに、89ページの河北創生牽引商社牽引事業委託の件でございますけれども、令和2年度につきましては、最初コロナのほうの影響で大分遅れたということもありましたけれども、何とか令和2年度の事業ということでは終了することができるようだというふうなことを聞いているところでございます。

また、令和3年度につきましては、2年度から引き継ぐというものもありますけれども、基本的には、関係人口案内所でのコミュニティー形成、移住促進、あとは地域商社かほくカンパニーのスタッフの人材育成、運営体制の強化、あとは戦略商品としての町内産イタリア野菜の1次加工場での商品開発、販路開拓、もう一つあります戦略商品の町内産ワインの試験醸造ともう一つ、町内産ナッツの生産の新規就農者の確保、育成、この事業を令

和3年度に行うというふうな予定になっております。

続きまして、91ページのふるさと納税業務委託のメリットでございますけれども、こちらにつきましては、平成30年度につきましては、15億9,000万円ほどの寄附をいただいております。また、令和元年度につきましては、7億2,000万円ほどの寄附をいただいております。現在、令和2年度につきましては、予算上は11億8,000万円、12億円ほどの寄附をいただいているということになっておりますけれども、そういった、ある程度不安定ではなくて、安定した寄附をいただくというふうな目的の下、多様化、複雑化する募集の仕組みに対応するためには、IT関連の知見や技術が必須となり、今後ノウハウのある民間事業者に委託して、事業の効率化を図るとともに、寄附の増加並びに町の魅力発信を強化を図るというふうなところを目的とした業務委託となっております。

続きまして、観光協会補助金の中の紅花資料館の館長の人件費というふうなことでございますけれども、こちらにつきましては、本来であれば資料館のほうの指定管理料というふうなことになるかと思っておりますけれども、観光協会としての人件費というふうなことも含めた中で、こちらのほうに今回は入れさせていただいたというふうなことになります。

あと、93ページの会計年度任用職員の件でございますけれども、こちらにつきましては、紅花資料館の学芸員につきまして、町のほうで会計年度任用職員として採用させていただいたというふうなものでございます。

学芸員につきましては、紅花資料館内の展示品の管理及び展示を中心とした業務を行っていただくというふうな形になるかと思っております。

また、現在町のほうで派遣しております観

光協会の事務局長につきましては、これまでもなんですけれども、観光協会の事務局長というふうなことで考えております。紅花資料館の内容にも深く関わってもらってはおりますけれども、基本的には観光協会の事務局長というふうなことになるかと思っております。

あと、道の駅河北費、95ページでの地域商社との関わりというふうなことでございますけれども、地域商社の事業としまして、町内産ワインの醸造というふうなことがあります。その中に、候補の1つとしまして、道の駅での醸造所での運営というふうなものもあります。

また、町内違うところでの醸造所の運営というふうなところもありまして、その中の事業の道の駅の部分の資料をお借りするような形で、それを参考にするような形で、道の駅の今後の運営というふうなものをつくらせていただいているというふうなことでございますので、必ずしも今現段階において道の駅の今後の指定管理について地域商社が行うというふうなものではないというふうに捉えているところでございます。

続きまして、96ページの指定管理料、どんがホールの指定管理料でございますけれども、こちらにつきましては、財政計画の中でもこのような金額で計画上となっております。

また、財政計画をつくる段階におきまして、どんがホールのほうとも話し合いを行って決めておると。

その中でやっていただくというふうなことで、この金額で提示させていただいているというようなこととなります。

最後ですけれども、ひなの湯のポンプでございますけれども、こちらにつきましては、10メートルの給水用ホースも兼ね備えたもので、そちらで給水して配水するというふうなことになっているポンプというふうな聞いて

おります。

○東海林委員長 「牧野生涯学習課長」

○牧野生涯学習課長 84、85ページ、6款1項6目の農村環境改善施設費の中の管工事でございますけれども、地区のセンターのほうの会議室等にエアコンを設置する予定していますが、地区センターのほうの和室のほうは既に設置になっておりまして、その地区センターのほうに会議室、テーブルが置いてある部屋が大体2つぐらいありますが、そのうち大きいほうの部屋のほうにエアコンを予定しています。

西里のセンターでは、集会室、溝延のセンターでは会議室、北谷地のセンターは視聴覚室という名称の部屋になっております。

○東海林委員長 「須藤都市整備課長兼新庁舎建設課主幹」

○須藤都市整備課長兼新庁舎建設課主幹 101ページに関連した道路除雪、とりわけ新年度から取り組む町道除雪促進事業に絡んでのお話でございます。

今回一般質問でも取り上げていただきましたけれども、これまで除雪機械、道路除雪を操作する除雪機械のオペレーターの高齢化が進んだ中で、委託先の確保というふうな困難な中で、今回新たな対応ということで、提案させていただいたのが町道除雪促進事業でございます。

内容的には、この予算に計上しているのが燃料費、あとは委託料、あとは使用料、あとは負担金として講習会というふうな部分での総額235万円ほどの内容です。

まず1つがリース車両、4か月間のリースというふうなことで、長期継続なりませんけれども、そうした中で、その中には自賠責保険、任意保険など、そうしたものも入った中でリース契約を結びたいと考えております。

そうした中で、新規に加わっていただける

方が操作しながら、事故対応ができるものというふうに考えております。

あと併せて、そうした中で新規に今回今募集した中で加わっていただける方に関しては、技術講習会を受けた中でシーズンを迎えていただくというふうなことで、講習会、民間のほうの機関で実施するものですが、そちらのほうでの対応ということでの予算化もさせていただいている内容でございます。

あと、105ページのほうに移りまして、いもこ列車、なかなか観光に進まないというふうな話でありますけれども、近年におきましては、ひなまつり、あるいはどんが祭り、様々な町のほうの大きなイベントに合わせた中で日程行事を運行のほうには合わせながら進めているという中ですけれども、なかなかいもこ列車自体、長期滞在ということで、あそこの公園に何時間もいるというふうな部分にはなくて、まず、来ていただいて、また別な場所に町内外の方が動くという部分での1つの寄り道をして、ちょっと寄っていただくというような場所にもあるのかなと思います。

そうした中で、我々といましては、せっかく河北町に来ていただいた方へは河北町のPRというものをしっかりした中で、滞在して食事をしていただくとか、そういうような声かけなどもしながら、しっかりとPRに努めていただきたいと思いますし、そうした中で、我々イベントと一緒にタイアップしながら進めていますので、観光協会などとも、あるいは商工観光などとも、その辺整理しながら、ぜひ河北町の滞在時間というものを高まるよう努めたいと考えております。

あと、107ページ、定住促進住宅に関して、今ご提案いただきました、全部で3棟ある中で、それぞれの棟について、なかなか入居率が芳しくない1つの理由として、やっぱ

り足腰の弱い方が5階まで上がる部分が負担になっているのではないかと。

そういう意味合いでは、5階までのエレベーター設置というものも検討すべきではないかというようなご質問でございます。

我々としましても、今入居率が落ちているという部分の中で、それに向けて、そういった住宅に精通している方々にちょっとどういった対応すれば稼働が高まるのかというふうなお話もさせていただきました。

その中で、今木村委員がおっしゃる、そうしたエレベーターの設置という部分も1つの提案であります。

事業規模もお聞きしているんですけども、やはり高額な工事費が伴うものになってきまして、その辺につきましては、今後課題を整理しながら、財政計画なども整理しながらすすめていく必要の中の1つのものとして考えていきたいと思っております。

○東海林委員長 「4番木村章一委員」

○木村委員 ヤマザワの東側のベニバナ栽培については2年目になりますかね。初年度はとにかく植えているということだったと思うんですが、なかなか観光で見てもらおう修景地としては人が行きにくい場所でもあるということですので、主に経済性の検証などが目的になってくるのではないかと思うので、目的意識を持ってしっかりやっていただきたい。

それから、6次産業推進については、何回か申し上げてきて、ようやく動き出すという、6次産業推進ネットワーク協議会ですかね、非常に期待をしたい。がっちりやっていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

それから、ふるさと納税の業務委託は、全体として寄附を増やしていくということ、寄附が増えるかどうか。それと経費が下げられるかどうか。どのくらい下げられるなんていうめどがあるのか。

あと、安全性の保障といいますかね、一度そこで何かニュースになるようなトラブルなどがあると、もう10億円が数億円までどんと落ちるとか、そういった可能性もあると思うんですね。どこかでありましたよね。こういったことではなかったかもしれませんが、何かトラブル、そこで関連の経費が不明朗になったなんていうことでニュースになると大きなダメージを受ける可能性があるの、そういったことの安全性とか、さらに、最後に聞きたいんですが、委託先の選定は、そういったことを含めてどうやってやるのか。いつ頃まで決めるのか。新年度早々となるという頃まで決めるのかお聞きしておきたい。

観光協会の館長の人件費が別だと。観光協会と紅花資料館は別だと言っておきながら、館長の人件費を観光協会に置くというのはちょっとなかなか分かりにくい。すっきり分かる説明できるんでしょうか。

どんがホール費の指定管理料が歳計上の数字だからといって消費税が上がったとか、さらに、大きな点では人件費が変わっていると。算定基礎となるべきような数字が変わっているという点では、十分協議をして、あまり無理なことはすべきではないんじゃないかなと思うんですね。よく相談していただきたいんですが、いかがでしょうか。

べに花温泉ひなの湯については、長い給水ポンプを使うということ分かりました。

いもこ列車は、早く観光化したらいいんじゃないかと思うんですけども、そうすると、担当も楽になるし、町民も見に来る人も喜ぶというふうになると思いますので、よろしくお願ひしたいと思っております。

定住促進住宅については、さすがちゃんと検討していると。エレベーターをそれぞれの階段のところにつけるか、1か所につけて、あと渡り廊下を外側につけるとか、ベランダ

側につけるとかということもあると思いますので、いろいろアイデアはあるんだと思います。

あと何年あそこを使い続けるかという、長いスパンで見たら、ちゃんとそれで元取れるといたしますか、30戸ぐらいがいつも入るとなったら、それだけ家賃収入、さらにそこに人が住むということは、河北町全体にとってプラスの効果がある、そういったものでありますから、河北町の公営住宅の事実上入ってもらえる部屋が増えるということを考えてときに、1つ1部屋何百万円かかけて増やしているのと比べてどうなのかというふうなことも検討もして、ひとつ前向きにしっかり検討してもらいたいと思うんですが、いかがでしょうか。以上、もう一度お聞きします。

○東海林委員長 「増川農林振興課長」

○増川農林振興課長併農業委員会事務局長 80ページ、81ページのベニバナ栽培関連業務委託ということで、2年目になるわけでありましてけれども、見てもらうというような要素を中心に、今回は重点的に取り組んでいきたいというふうな、見てもらうというような要素を考えてやっていきたいというふうに思っております。

あと、84ページ、85ページの6次産業推進費に関わることでありますけれども、仮称として河北町6次産業推進ネットワークということで協議会をつくりたいと。仮称で協議会の名称しておりますけれども、多少時間をいただくというようなことが必要だと思いますけれども、6次、農業の面のほうから6次産業ということで、農業者の所得を増やしていくというふうなことを目的に協議会をつくっていききたいということを考えてございます。

○東海林委員長 「佐藤商工観光課長」

○佐藤商工観光課長 ふるさと納税業務委託でございますけれども、経費につきましては、現

在の経費とほぼ変わらない経費というふうなことで考えております。

ただ、委託することによりまして、安定的な収入が得られるというところが一番のメリットではないかなというふうに思っております。

寄附額は増えるものと期待をしているところでございます。

安全性につきましては、いろいろな業者の方からお話を聞きますと、個人情報等の管理等々につきましても、すばらしい安全性を持っている企業さん、事業者さんがほとんどだなというふうに考えております。

選定の方法ですけれども、プレゼンを行いまして、プロポーザル方式で選定していきたいというふうに考えております。

また、時期につきましても、できるだけ早い時期に委託をしていきたいというふうなことで、できれば7月ぐらいにはもう決めていきたいというふうに考えているところでございます。

観光協会補助金のところでの館長の報酬ということですが、紅花資料館の館長といたしまして、やはり紅花資料館のPRをしていただくというふうなことで、観光協会業務の中で相当な出番が出てくるかなというふうなこともありまして、今回はこちらのほうに計上させていただいているというふうなことです。

あと、どんがホールでございますけれども、こちらにつきましては、財形計画にも乗せているということなんですけれども、指定管理料の前年度の実績も踏まえた中での金額というふうなことでございます。

また、人件費につきましても、元気netさんの給与規定に基づいて、不足がないように調整をしているというふうなことでございます。

また、職員が退職するときに新規職員は、給与規定では額の低い水準となりますので、その中で全体的に不足がならないような指定管理料になっているというふうなことでございます。

○東海林委員長 「須藤都市整備課長兼新庁舎建設課主幹」

○須藤都市整備課長兼新庁舎建設課主幹 いもこの列車のさらなる観光化ということで、これに関しては、我々努力して、とにかく町の宝であり、観光資源であるのは今も現実として捉えていますので、そうしたものをさらに引き上げて、そういった魅力づくりを高めた中で連携を図られればというふうなことで、まずは我々努力しなければいけないと考えております。

あわせて、エレベーターに関しては、やはり費用対効果という部分も整理しながら、ちょっと長期的な意味合いの部分も整理をしながらですけれども、早期にそういった計画づくりといいますか、イメージを立てながら進められればというふうなことで、担当部局のほうとしても整理しておるところです。

なかなか今の現状の家賃という部分についての整理もしないと、今の家賃も現状のままでもいいかとか、その辺もありますし、その辺も整理しながらでないとなかなか費用対効果という部分の整理もつきづらいつら部分もあるかと思えます。

そういった部分しっかりと進めてまいりたいと思えます。

○東海林委員長 「4番木村章一委員」

○木村委員 時間がなくなりましたので、ベニバナ栽培関連業務ですが、そうすると、農道なんですけど、見る人、修景地として見る人のための何か特別な交通整理などをしていくのかどうかお聞きしておきたいと思えます。

○東海林委員長 「増川農林振興課長」

○増川農林振興課長併農業委員会事務局長 令和2年度ものぼり旗などで周知、あと、チラシなどでも周知もしたわけでありましてけれども、令和2年度の状況も踏まえながら、より見てもらうようなことをやっていきたいというふうに思っております。

○東海林委員長 「4番木村章一委員」

○木村委員 終わります。

○東海林委員長 以上で4番木村章一委員の質疑を終わります。

次に、「10番松田収作委員」

○松田委員 それでは、私から3点ですか、お伺いしたいと思います。

100ページの8款2項3目道路新設改良、この補助事業と……

○東海林委員長 松田委員、マイク近づけてください。

○松田委員 補助事業、単独事業、この場所と、これをお願いしたいと思います。

それから、もう1点は、100ページの道路改良、道路橋梁……、国道287をはじめとする国道整備期成同盟ですか、これがあれなっていますけれども、これ過去に287の整備ということでは、たしか今年で29年目になると思うんですけども、随分町民待望していますけれども、橋梁総務費、これどういふなかなか伸びないのかなと思っているんですけども、その辺ちょっとお伺いしたいと思います。大体2点です。

○東海林委員長 「須藤都市整備課長兼新庁舎建設課主幹」

○須藤都市整備課長兼新庁舎建設課主幹 まず、最初の質問の順番でいきます。101ページのほうの道路新設改良費補助、あと単独ございます。これにつきましては、皆様のほうへそれぞれの工事箇所ということで、別途添付資料をつけさせていただいております。

代表的な箇所だけちょっとお話しさせても

らいますけれども、補助事業の中には、新たに新規で下野真木第3号線、こちらのほうは下楨地内、今県道の主要地方道寒河江村山線のほうの歩道整備に合わせて、新たな交差点の見通しが悪いところを改良したいというふうなことで調査を進める部分が新規で入っています。

またあわせて、谷地溝延線の歩道修繕、あるいは下野真木線、ちょうどひなの湯の前の辺りのL字区間、それに関わる、そうした部分での測量調査、土木工事、用地取得費などが主なものであります。

その総額としまして、補助金額が6,804万8,000円というふうな内容です。

あわせて、道路新設改良費の単独に関しては、ちょっと本数が多いので、これについては、申し訳ございません。添付資料のほうをご覧ください。

その中で、測量調査あるいは工事などが含まれているといったこととなります。よろしくお願ひします。

あとあわせて、予算書でいきますと99ページ、8款2項1目道路橋梁総務費の中に国道287号谷地橋4車線化促進期成同盟会負担金7万円、こちらに関してのお話だと思ひます。

これに関しては、事務局が河北町にございますけれども、あとは、構成市町としまして、東根市なども加わって、谷地橋を中心とした4車線化というものをイメージしながら、その促進を進めていきたいと。

数年前に町民大会なども実施しておりますが、なかなか山形県のほうで管理する道路、国道287号線につきましては、その道路の整備計画の位置づけがなかなかまだ明確なものとして河北町内にある287の位置づけがまだはっきりとしていないというふうなことであります。

そうした意味で、我々としては、重要物流

道路というふうな位置づけの中で、しっかりとした根幹をなす道路でもありますし、何とか今の慢性化した渋滞というものを解消するためにも、やはり今の道路、2車線を改良すべきであろうというふうな視点で、引き続きそういった整備促進のための同盟会活動を進めていきたいというふうなことで、新年度も引き続きでありますけれども、見通しはなかなか難しい面もありますけれども、やっぱり継続して進めないと、これは難しい面でありますので、引き続き予算化させていただいているという状況です。

○東海林委員長 「10番松田収作委員」

○松田委員 道路新設のほうは分かりました。

この国道287の促進期成同盟会ですけれども、これ何年か前には信号を何か所か減らせと、たしか2か所減らせと言ったと思うんですが、そういうことで、国道のほうからの国のほうからのそういう要望というか、常の規定ですけれども、これをなくしたとか、そういうことがあるんですけれども、やっぱり本当に万年的にずっと道路渋滞がひどいので、これを何とかもっと強い要望というか、あれはできないものかなと思ひているんです。

今年で本当に私の知るあれですと、29年目だと思います。ですから、長くかかっても、遅々として進まない。このあれがどこにあるのかなと思ひて、ちょっと危惧しているんですけれども、その辺どうも分かりませんか。

○東海林委員長 「須藤都市整備課長兼新庁舎建設課主幹」

○須藤都市整備課長兼新庁舎建設課主幹 やはり、

こちらに関しては、非常に長期に及ぶ大きなプロジェクトになりますので、やはり、町のほう、地域のほうの声をしっかりと県あるいは国のほうにしっかりと伝え続けないと、なかなか難しい部分もありますし、あとは、中長期の道路整備計画、県のほうにも位置づけ

ありますけれども、その辺での長期計画でのちゃんとしたマスタープランが示されないと、なかなか整備にまで結ぶという部分の方向性は、道筋はまだまだ難しい部分がありますので、やっぱりしっかりと強い思いを継続的に続けなければいけないということだと思えます。

○東海林委員長 「10番松田収作委員」

○松田委員 じゃ、やっぱりこの間に2回ほど町民大会というか、サハトベに花でやった経緯もあるんですけども、ますます要望活動、あるいは陳情等々を強めていってもらうことをお願いを申し上げ、終わります。

○東海林委員長 以上で10番松田収作委員の質疑を終わります。

次に、「14番岡田桂司委員」

○岡田委員 ちょっと委員長にお願いしたいんですが、農林と商工のほうでベニバナ関連と一緒に質疑をさせていただきたいなと思えますが、よろしいでしょうか。

○東海林委員長 はい。

○岡田委員 では、行きます。80、81ページ、3款1項3目、同僚議員もちょっと質疑なされたんですが、ベニバナ栽培関連事業の委託事業の中です。129万円、その中の大きな、今課長が修景というのが出てきてなんですが、町長の提案理由の説明の中では、栽培面積を要するに世界農業遺産への申請が行われたということで、栽培面積の拡大、そして、染料、加工まで行う事業というふうに乗っているんですが、修景だけでなく、早く言えば紅染めまでできる工程をやっていく事業というふうに私捉えているんですが、その辺の関係をお聞かせ願いたいと思えます。

それをやる部署と、それから、商工観光課の93ページ、9款1項4目の中のベニバナ修景地栽培委託料であります。これも修景地として、簡単に言えば見るだけというふうに

なるのか。それとも、そのベニバナを使って何かをするのかというふうに思います。それをまとめるのがいろいろ第8次総合計画にも出ていますが、要するにプロジェクトチームといった中での会議、話合い、どのように進んでいるのかも聞きたい。お伺いできればなと思います。

せっかく植えていて見るだけ、あとはもうなったとかというのでは、私はもったいない。ですから、それを使って、その紅餅まで作る部分と、一般の今コロナ禍の中でお客さんは少ないかもしれませんが、ぜひ河北のベニバナを取ってくださいますか、何か私はいろいろイベントがあってもいいのではないかなと。

1つのそういったストーリー性というものをきちんとプロジェクトチームの中できちんと決めてあれば、そういう意味では、どういう考えでいるかお聞きしたいと思います。

それから、82ページ、83ページ、6款1項5目、これは農道の除雪の委託料であります。101万円です。最近昔は農地・水、今は多面的機能支払交付金というのがあります。その中の回覧が果樹畑の除雪、希望の方はということで回覧回った。じゃ、もう農林課で今までやっていた農道の果樹とか何かのところへ行くとところに除雪してくれていたのがなくなって、多面的機構で全部やるのかなと私一瞬思ったら、課長からもお聞きしたら、農地の部分でしっかり除雪費というのがありました。

じゃ、そのすみ分けといいますか、多面的機能支払交付金の中では、農道というか、どういう場所からそれをやるのか。ちょっとその辺のすみ分けをお聞かせ願えればと思っております。

あと、86ページ、87ページ、6款2項1目鳥獣被害対策事業、継続であります。実施隊とって、要するにいろいろ皆さんあるの

は、平成30年かな、私議長させていただいたときに、それを実施隊ができて、皆さんがすごく喜びました。なかなか弾買うのも大変なのよと。それができました。そのときは、まだ河北町にイノシシが出るというふうな情報もなかったんですが、ちょうどその頃平塩で13頭捕まえたという、前の寒河江の議長の内藤議長の畑は、里芋とジャガイモが全部やられたというふうに聞きました。

じゃ、最上川を渡って、寒河江川を渡って河北町に入るのは、ちょっと時間がかかるかなというふうに思っていたところ、この下のほうの今度事業が新規に猟銃免許取得等補助金が出ました。要するに、いろいろな地区で猟友会だけでは足りないというので、皆さん免許取ってください。そして、あつたら捕獲してというふうに、何かなっているようですが、そこまで来たのかなというふうに私思っているんですが、どういう状況なのかをお聞きできればなと思っております。

あと、紅花資料館であります、ページ、92から95までの間になりますかね。これも町長の提案理由の説明の中に展示品の適切な管理、工夫した展示に努めるというふうにあるんですが、何か分かるような分からないような、ちょっと私が考えたのは、「如月恋ひなまつり」のときは、紅の館の一角におひな様を飾っておくから始まって、展示の内容に従って、例えば母屋の蔵座敷にその4月の、1か月遅れの4月3日あたりに、そういうところに飾るのかとか、何かストーリー性とか、何かあるのかなと考えているんですが、どういうことなのか、ちょっとお聞かせ願いたいと思います。

あと最後です。ひなの湯、97ページ、7款1項10目、その中にボイラー交換とか、地下ピット内の配線等の修繕。前の議会の中で、ひなの湯のあれが地下にあるということが出

ていますけれども、前も地下にあって、私そのとき聞いたのは、要するに内水があって、簡単に上から水があふれて、中に水入っているいろいろ壊れたというふうに最初思ったんですが、お話を聞いたら、地下水が上がって、そして中に入ったんだと聞きました。

今回修繕やるに当たって、私はやるんだったら、そういうふうにならないように、地下から上に上げなきゃならないんじゃないかということをお聞きしたいと思っております。お願いします。

○東海林委員長 「増川農林振興課長」

○増川農林振興課長併農業委員会事務局長 農林振興課で言えば、80ページ、81ページのベニバナ栽培関連業務委託料129万円ということになりますけれども、岡田委員からありましたように、農林振興課のほうでは世界遺産を目指す協議会の中で動いているということで、生産から加工まで、その中では見ていただくということも大変重要なことでもありますので、先ほど木村委員からあったようなことで、見ていただくことに重点的に説明したところ、岡田委員のほうから世界遺産関連の話があったわけでもありますけれども、町長の最初の施政方針のほうであったように、加工まで行うというようなことで、今回の事業は考えているところであります。

その中で、町全体としても令和2年からプロジェクトチームを作成しまして、全体的にベニバナ振興を行っているというふうなことでございます。

次に、82ページ、83ページ、農道の除雪費でありますけれども、農林振興課のほうで行う除雪につきましては、幹線農道というふうなことで対応させていただいていると。

農道につきましては、春作業の剪定作業な

どに間に合うような形で除雪をさせていただいているわけでありませけれども、令和2年の雪につきましては、12月中からもう大雪になったというふうなことで、農林振興課のほうでは業者委託をして除雪をしたというふうなことで、その必要なときにどうしても町道優先になると。生活道路が優先になるというふうなことで、農道のほうはどうしても対応できないというふうなことがあります。

生活道路優先後に農道の除雪と農作業の状況を見ながらやっていくというふうなことであります。

その補完ということで、多面的機能支払交付金事業でも作業の中で行えるというふうなことで、今年度は令和2年12月22日でありませけれども、今年度も多面的機能支払交付金のほうで行いますよということで、地域で持っている除雪作業機などを利用しながら、それぞれの必要な農道については、除雪をお願いしたいということで、連絡文書などを送らせていただいて、それぞれの町内の12組織のほうに連絡をさせていただいていると。それぞれ地域で必要とする農道の維持管理に除雪をお願いできればなということで、周知のほうも行わせていただいているというふうなところでございます。

次に、86ページ、87ページの鳥獣被害対策実施隊に関連しまして、地域狩猟免許取得等補助金ということでありますけれども、平成30年に鳥獣被害対策実施隊ということを経成させていただいたと。この時点では、熊などの被害ということが重点的になっているわけでありませけれども、河北町のほうもだんだんとまだ深刻な被害ということで、イノシシの被害はまだ見受けられないわけでありませけれども、山のほうではやっぱりイノシシを見かけたとか、畑を、本当に山の中ですけれども、被害が出ているような状況も報告を受

けております。

いつ近くのほうの山というか、畑のほうに出てくる状況も考えられるというふうなことで、今現在猟友会の河北支部分科会のほうに鳥獣被害対策実施隊をお願いしながらやって、今は熊対策などで特にお願いをしているわけでありませけれども、将来的にイノシシ被害も考えられるという中で、その猟友会の組織についても高齢化などが進んでいるというふうなことで、今の段階から新しく猟友会の会員になっていただくというふうなことを目的に、今回新規狩猟免許取得等の補助金をつくりまして、組織の強化を図っていきたいというふうなことで、今回考えているところであります。

猟友会のほうには、協力していただいた上で、今後のイノシシ被害を防いでいくというふうなことで、今からその体制を整えていきたいというふうなことで、このたび令和3年度の予算ということで考えさせていただいているところでございます。

○**東海林委員長** 「佐藤商工観光課長」

○**佐藤商工観光課長** まずは、93ページの商工観光課としてのベニバナ修景地のことでございませけれども、商工観光課のベニバナ修景地植栽委託につきましては、大きく分けまして、ハウスと路地のほうに分かれております。

ハウスにつきましては、早咲きというふうなことで、ベニバナキャンペーンに合わせましてお願いしている部分があります。こちらにつきましては、キャンペーンに合わせまして、山形空港やあとは山形市内のホテルのほうに河北町のベニバナを展示していただきまして、キャンペーンをするというふうなものでございます。

路地栽培につきましては、基本的には修景のみというふうなことになります。やはり、河北町に訪れてきた方々からベニバナを見て

いただくに当たりまして、摘んでしまう場合は、三片紅のときに一番摘むというふうなことになっております。これは、岡田委員さんもお承知かと思えますけれども、そうしてしまくと、せつかく来ていただいたお客様がベニバナ畑を見るときに、やはりベニバナでいっぱいの畑というふうなものが見れなくなってしまうので、基本的には摘まないというふうなことで考えております。

ただし、体験観光の場合には、ベニバナ畑の奥のほうのあまり見えないところについて、摘み取りをしていただくというふうなこともしているところでございます。

あと、続きまして、紅花資料館のほうの町長の説明の中で、展示品の適切な管理、工夫した展示に努めるために、新たに学芸員を設置するというふうなことの説明があったかと思えます。

それで、今回会計年度任用職員としまして、学芸員を配置するというふうなことを考えております。

こちらにつきましては、やはり専門的な知識の中で、展示資料の保存及び展示というふうなものがありますので、そういったところをきちんと今後していくと。展示品につきましても、やはり展示するというふうな目的と、後世に残していくというふうな、2つの側面があります。これまでは、どちらかというところ、展示というふうなところが多く、保存というふうなところがなかなか少ない部分になっていたのかなと思えます。

そういったところもきちんとした形で運営をしていくというふうな形で、今回学芸員を配置させていただくというふうなことになります。

あとは、当然特別展の企画などにつきましても、きちんとした学芸員がいることによって、貸していただけるものも増えるというふ

うなことになるかと思えます。

あと続きまして、最後に、ひなの湯の洪水対策というふうなところでもございますけれども、前回岡田委員さんから提案がありましたように、地下の部分を上へ上げればというふうな話をいただいた中で、その話も公社のほうと話をした経過がありますけれども、やはり、莫大なお金がかかってしまうというふうなことと、あとは、相当な期間休まなければいけないだろうというふうなことの話になったところでございました。

その対応としまして、今回ポンプを購入させていただきまして、もしまた地下ピットのほうに水が入り込んだ場合には、速やかにその水を排除するというふうなことで対応していきたいというふうなことで、今考えているところでございます。

○東海林委員長 「14番岡田桂司委員」

○岡田委員 ベニバナについては、まだまだみんな話をして、いろいろな要素があると思えますので、頑張ってくださいなと。

私反対して言っているわけではない。よりよくなるように、そして、河北町が宣伝になって、ベニバナの里河北というふうになれるようにと思って、今いろいろ言わせてもらっています。

皆さんの活躍を期待しているところであります。

あと、農道の除雪多面的機能のあれは分かりました。

何かこれ、みんなすごく喜んでる人もいます。除雪機械持っている人は、自分のところでやるということが出来ますが、どうしたらいいべや、みんなかんじき履いてやった様々して、剪定も終わりに近いくらいになってきておりますので、いろいろもっと早くしてもらえればありがたかったかなんていうふうにも思っております。

分かりました。

あと、鳥獣対策ですが、ここに新規で猟銃免許取得とあるんですが、課長、これ猟銃、要するにピストル、要するに銃だけじゃなくて、わなも一緒に何かいろいろ免許要らしいんですが、それも全部含まれているということですか。

あと、紅花資料館、今度館長さんが出て、そしていろいろ中を吟味しながらだというふうに捉えたんですが、やはりいつも同じような展示というのがやっぱりもっともって違って、その季節に合ったやり方というものをひとつ検討してもらえばありがたいなど。

さっき言いましたように、まだ雪のあるうちの「如月恋ひなまつり」は、紅の館でありますから、今になってくると母屋のほうを使ってとか、少し中で移動して、おひな様も転々と歩くんじゃないですが、やってもらえばいいのかなんていうふうにも思っております。

分かりました。

あと、今ひなの湯ですが、こうやって対応すると。お金がかかってということですが、やはり本当はもっと1メートルぐらいもっと高かったんですけども、費用がかかるということで、1メートル下げているわけで、そこにまた地下というのは、もう今となれば考えられないような話ですが、まずは、それでしばらくやるということで、了解しました。

政策推進課の課長、ひとつそのプロジェクトチームというふうになる中で、いろいろリーダーシップを取っていただく。この前、12月定例会のときには、各課長さんから熱意のあるお話をお聞きしたところでもあります。取りまとめている推進課のほうでは今からどういうことをしていきたいというふうに抱負があれば、お聞かせ願いたいと思います。

○東海林委員長 「宇野政策推進課長」

○宇野政策推進課長 第8次総合計画の基本計画の中でも「雛とべに花にこだわったまちづくり」、これを進めていくんだというふうに書かせていただいております。

それに併せまして、ベニバナにつきましては、今の修景地、紅花資料館、さらに世界遺産、農業遺産、これらを組み合わせ、町の1つの顔として発信していく必要があるというふうに思っておりますので、その辺を取りまとめて、全庁横断的な取組をまとめていきたいというふうな、ベニバナ計画をつくって、発信していきたいというふうに考えてございます。

○東海林委員長 「増川農林振興課長」

○増川農林振興課長併農業委員会事務局長 86ページ、87ページの新規猟銃免許取得等補助金についてでありますけれども、対象者を河北町に住所を有する者と、新たに狩猟免許等を取得した者、猟友会西村山支部河北分科会の会員として3年以上有害鳥獣に従事ができる方というふうなことで考えていると。

経費対象としましては、狩猟免許取得に係る経費ということで、初心者講習会の受講料、狩猟免許試験受講料、あと鉄砲所持許可に係る経費ということで、狩猟等初心者講習会受講料、射撃教習資格認定申請手数料、鉄砲所持許可申請手数料ということで、狩猟免許取得に関しましては1万5,000円程度、鉄砲所持許可に係る経費については7万円程度、あと、有害鳥獣の捕獲に必要な物品の購入に要した経費ということで、鉄砲、銃器であります。銃器保管、装弾保管庫などということで、特に銃器、鉄砲につきましては、かなり高額なものになるというふうなことなんですけれども、合わせて10万円ほどの補助をさせていただきたいと。1人について10万円ということで、今年度は2人の方を見込んでというふうなことで、対象経費などは、このような形

になるというふうなことでご理解いただきたいと思ひます。

わなについては、対象に今回考えていないというふうなことになるひます。

○東海林委員長 「14番岡田桂司委員」

○岡田委員 ベニバナについては、皆さん各課とも思ひ切っている障がいを乗り越えて頑張っていただきたいと思ひます。終わります。

○東海林委員長 以上で、14番岡田桂司委員の質疑を終わります。

ここで2時45分まで休憩といたします。

休 憩 午後2時25分

再 開 午後2時45分

○東海林委員長 休憩を解いて、再開します。

委員長から申し上げます。

ここで、東日本大震災で犠牲になられた数多くの方々に対しまして心からご冥福を祈り、地震が発生いたしました午後2時46分から1分間の黙禱をささげたいと思ひます。

皆さん、ご起立ください。

黙禱始め。

お直りください。黙禱を終わります。

ご着席ください。

○東海林委員長 質疑を続けます。

次に、「3番齋藤隆委員」

○齋藤委員 3点質疑させていただきます。

1点目ですけれども、96、97ページの7款1項9目どんがホール費ということで、塗装工事ですね。提案理由にもありましたけれども、コリドーの木部の塗装、3年間の最終年度ということですが、たしか3年間で1,800万円ほどかかる工事、塗装ということで、随分内部からは高過ぎるんじゃないかという声があったんですね。入札の結果、金額で3年間で最終年度ということなんですけれども、それでも最終年度で五百六十何万円という金額で、なぜこんなに高いのかという、ちょっと話が出て、その説明をお願いしたい

というふうに思ひます。

それから、2点目ですけれども、同じ96、97の7款1項10目のひなの湯、これも電気工事ということで、LED化工事ということで、一般質問でも取り上げさせていただきましたけれども、こういった施設のLED化を進めるべきだということで、早速ひなの湯ということでやったんだと思うんですが、これで大体ひなの湯はこれで終わりを見ていいのか。今年度はこれで終わって、次また別な施設という考え方なのか。そのLED化に対する考え方をお聞かせいただきたいと思ひます。

あと、3点目ですけれども、106、107、8款5項1目の特殊建築物等調査委託料ということで、定住促進住宅費ですね。事業内容が敷地内の擁壁や建築物の劣化及び損傷の状況、また、避難施設の状況の安全管理の調査を行うと、こういう説明なんですけれども、避難施設というのは、具体的にどういふことを言っているのか、ちょっと詳しくお聞かせいただきたいと思ひます。以上、お願いします。

○東海林委員長 「佐藤商工観光課長」

○佐藤商工観光課長 初めに、97ページ、どんがホールの塗装工事費でございます。

3年で令和3年度で終了というふうな工事になりますけれども、高いというふうなご質問でございますけれども、こちらにつきましては、ただ塗るだけでなく、下地剤として腐食防止の灰汁洗いというものも行いまして、長寿命化を目指したやり方というふうなことになるっておりますので、通常に入札をしてのものでございますので、妥当な金額なのかなというふうに考えているところでございます。

あと、べに花温泉ひなの湯費の電気工事でございますけれども、こちらにつきましては、ひなの湯のほうで令和2年度につきましても、半分ほど電気工事を行って、令和3年度でひなの湯につきましても、終了というふうな形

になるかと思えます。

今後につきましては、今度はひなの宿のほうにつきましても、計画していきたいというふうに考えているところでございます。

○東海林委員長 「須藤都市整備課長兼新庁舎建設課主幹」

○須藤都市整備課長兼新庁舎建設課主幹 107ページにございます定住促進住宅特殊建築調査委託料でございます。これは、3年に一度の定期的な検査というふうなことでございます。

先ほど齋藤委員からお話がありました避難所の部分は、共有の通路というふうなことで、実質は階段とか、そうした部分の附属の施設物などについての点検が加わるというふうなことになります。

○東海林委員長 「3番齋藤隆委員」

○齋藤委員 1点目ですけれども、下地処理、特殊な塗装になるということでありましたけれども、ちょっとなかなか1人で、見ていると、工事やっているんですね。かなり長い時間かけてやっているということで、本当にどうなのかということ、これだけかかると。

それで、長寿命化ということで、今回この下地処理、塗装することによってどの程度、じゃコリドーもつのかですね。その辺の考え方をお聞かせいただきたいと思えます。

それから、2点目については、今年度で終わるということで、次はもうひなの宿ということで、できるだけやっぱり集客が望めるようなところをやっぱり優先的にやっていく必要があるのかなと。できるだけ人が利用して、しかも収入が見込めるというふうな考え方で、優先順位をつけていくべきなのかなと思っておりますが、その辺の考え方をお聞かせいただければと思えます。

限られた金額ありますので、年次的にやっぱり進めるしかないと思えますので、考え方についてお聞かせいただきたいと思えます。

3番目については、共有スペースというか、通路ということですので、了解いたしました。じゃ、お願いします。

○東海林委員長 「佐藤商工観光課長」

○佐藤商工観光課長 何年もつかというふうなことでございますけれども、今回3年かけて塗装工事を終了したというふうなことで、10年以上はもたせたいなとは思いますが、やはり場所、場所によってその破損度が違って来るかと思えますので、定期的に業者の方から見ていただきまして、適正な修繕を行っていきたいというふうに思っております。

○東海林委員長 「宇野政策推進課長」

○宇野政策推進課長 公共施設のLED化全体に関しましては、やはり財政計画の中で位置づけて計画的にやっていくべきというふうに考えてございます。

ひとつ工夫したのが、来年度の予算の中でもありますけれども、体育施設の指定管理料のほうに上乘せしまして、町民体育館のLED化、いわゆるリース契約ということで、そういったものも活用して、LED化を進めていきたいというふうな考えでございます。

なお、これにつきましては、財政計画のほうですので、どこからというのはなかなかあれですけれども、全体的なものを見ながら、計画してまいりたいというふうな考えでございます。

○東海林委員長 「3番齋藤隆委員」

○齋藤委員 1点目ですけれども、かなり3年間ということで、やっぱりこれ終わらないうち、なかなか次の修繕にかかれないうち、かなりどんがホールも古くなってしまっていて、修繕箇所もいっぱいあるし、あと、いろいろなイベントの際にもあそこの駐車場なんかかなり傷んでいます。

だから、そういったことで、もう本当に要望があるんですが、やっぱりぜひその辺も長

期的に修繕をお願いしたいということで、この辺について、ちょっとどういうふうを考えているのか。

これ終わったらまた次の修繕考えているのかどうか。ひとつ、そこだけお聞かせいただきたいと思います。

○東海林委員長 「佐藤商工観光課長」

○佐藤商工観光課長 どんがホールにつきましては、指定管理者であります元気netさんのほうと話し合いをさせていただいておるところでございます。

今指摘がありました駐車場の舗装につきましても、ここ数年来の課題というふうなことで捉えているところでございます。

また、やはり経年劣化というふうなことで、内部のほうでも破損しているようなところがありますので、引き続きどんがホールの指定管理者である元気netさんと相談を行いながら、優先順位を決めていって、財政計画を通して修繕していきたいというふうに考えております。

○東海林委員長 「3番齋藤隆委員」

○齋藤委員 終わります。

○東海林委員長 以上で3番齋藤隆委員の質疑を終わります。

次に、「8番細矢誓子委員」

○細矢委員 それでは、私から5点ほどお伺いたします。

最初に、79ページ、6款1項1目農業委員会費、河北町人・農地リニューアル事業補助金165万円です。この事業の目的と事業内容について、まずお聞きいたします。

それから、87ページ、6款2項1目林業振興費、先ほど14番委員も質問なされた件ですけれども、新規狩猟免許取得等補助金20万円、これは、私たちが議員と語る会の溝延地区のときに、そこに住まれている地区民の方々からぜひそういう制度をつくってくれという要

望があったと思います。これは実現したということで、私は大変うれしく思っております。

この経費、その免許取得するには大体どのくらいの経費がかかるのかということをお聞きしたいと思います。

それから、91ページ、7款1項2目商工振興費河北発信事業費、新規事業でございます。河北町アンテナショップ割引券交付金14万円、これ、説明を見ますと、事業概要の説明としては、河北発信大使の名刺にアンテナショップで使用できる割引券機能を追加し、河北町のPRに努めるというふうに説明がございました。

現在河北町で発信大使は12人いらっしゃるんですけども、大体1人何枚ぐらいの枚数になるのか、その辺をちょっとお尋ねいたします。

それから、同じく91ページ、7款1項4目観光費、観光総務費であります。河北町観光協会補助金1,233万5,000円、事業内容の説明を見ますと、これまでの補助金に谷地どんが祭り事業費と紅花資料館館長の人件費を増額というふうに説明文には書いてありました。前年度は、これ観光協会補助金というのは416万円ぐらいだったと思うんですけども、谷地どんが祭り事業費というのは、昨年まではフルーツライン左沢線活用協議会負担金から出ていたというふうに説明があったと思います。これがこういうふうに変ったということの説明をお願いします。

それから、93ページ、7款1項4目観光振興費、広告料の中に入っているというふうに説明を聞いたんですけども、これ新規事業で、事業名としてテレビ、ラジオ我が町にぎわい創出タイアップ事業というふうに書いてありました。その事業内容としまして、ベニバナの時期に合わせてテレビ、ラジオを通して河北町の誘客を図るというふうに書いてあ

ります。これの具体的活動内容を教えてください。お願いします。

○東海林委員長 「増川農林振興課長」

○増川農林振興課長併農業委員会事務局長 78ページ、79ページの河北町人・農地リニューアル事業補助金についてであります。この事業については、新しい事業というふうなことになるまして、荒廃した農地を再生していくというふうな事業になります。

農振、農用地区域内において簡易な基盤整備事業等により農地を再生していくというふうな事業になります。

その再生された農地、5年間以上耕作していただくというふうなことになります。

新たに就農する方、あと認定新規就農者等がその事業対象者ということになってございます。

この事業につきましては、令和2年度から県のほうで取り組んでいる事業でありまして、河北町では令和3年度から取り組んでいきたいということで、県が4分の1、町が4分の1ということで、この事業を耕作放棄された農地などを再生していきたいというふうなことでなっております。

河北町新規猟銃免許取得等の補助金ということで、87ページの事業になりますけれども、免許取得にまでかかる経費ということで、免許取得にかかる経費ということで1万5,000円ほど、あと、鉄砲許可等にかかる経費ということで7万円程度考えられるというふうなことで、そのほかに銃器などの鉄砲にかかるものが相当もつとかかるというふうなことになります。免許も鉄砲許可まで至るまでは8万5,000円ほどかかるのかなということで考えてございます。

○東海林委員長 「佐藤商工観光課長」

○佐藤商工観光課長 91ページの河北町アンテナショップ割引券交付金事業でございますけれ

ども、こちらにつきましては、大使1人につきまして100枚を予定しているところでございます。

同じページの観光協会補助金のどんが祭りの分でございますが、今年度までの事業として、フルーツライン左沢線活用協議会よりどんが祭りに対して補助金が行ってございました。こちらにつきましては、地方創生推進交付金事業というふうなことで、こういったフルーツライン左沢線活用協議会という組織を寒河江西村山地区で作りまして、行っていたものでございます。

ただ、今年度でこの事業が終了するというふうなことになりますので、その分については、町から今度は真つすぐ補助金を支出するというふうなことで計画しております。中身的には545万円を見込んでおるところでございます。

93ページの広告費の中のテレビ、ラジオ我が町にぎわい創出タイアップ事業でございますけれども、こちらにつきましては、テレビ、ラジオを活用しまして、7月の3日、4日に開催を予定しておりますべに花まつりやベニバナの見どころの時期に合わせまして、ベニバナや冷たい肉そばなどをPRし、河北町への誘客を図るというふうな新たな事業でございます。

具体的な内容につきましては、テレビでの6月26日から7月2日までの間で河北町ウイークというふうなことで、テレビ、ラジオで河北町をPRしていただくというふうなものでございます。

テレビとあとはラジオで数本、あとはテレビスポットとラジオスポットというふうなことで、河北町ウイークの事前告知などをしていただくというふうなものでございます。

また、この時期に合わせまして、旬な話題などもその中に折り込みまして、河北町への

誘客を図っていこうというものでございます。
以上です。

○東海林委員長 「8番細矢誓子委員」

○細矢委員 ありがとうございます。

さっきの農業委員会のほうですけれども、この要するに荒れた農地をこれから新規就農する方とかの人にお貸しして、そして、その農地をきちんと持っていくという事業だと思いますね。

この農地ですけれども、例えばその農地、今まで稲作をしていた田んぼを畑作に替えるということはできるのでしょうか。

ということと、あと、その新規狩猟免許取得の補助金ですけれども、大変議員と語る会の中でもとてもお金かかるよというふうに訴えた方が語られていましたので、やはりこれ上限10万円まで補助されていच्छやるといいう、これはとてもいい事業だなと思って、やはりこれからそういうイノシシ、熊、いろいろな鳥獣がやってくるのに対して、早く手だてを打っておくというのは、大変いい施策かと思っております。

この施策はその河北町以外の自治体でももう既に実行されているところはあるのでしょうか。それもお聞きします。

それから、先ほどの河北町の観光協会の補助金です。今回は、谷地どんが祭りに545万円というふうなお話でございましたんですけども、館長の人件費というのは幾らぐらいになっているのか、もしお分かりになりましたら、お聞かせください。

アンテナショップ割引券、とてもこれは面白い河北町独自の事業だなと思って、やはりこのアンテナショップ、関東圏での情報発信基地として、やはりこのアンテナショップをフルに活用するというのは、河北町の観光にとってはとてもプラスになる事業だと思っております。

割引券機能とありますけれども、何ぼぐらい割引きになるのか、お知らせください。

それから、先ほどの広告費の我が町にぎわい創出タイアップ事業ですけれども、様々6月26日から7月2日にかけて河北町を中心にしたいろいろな情報を発信してくださるということで、やはりマスコミを使う観光の利点というのは、こういうところに生かされてくるんじゃないかと思って、大変期待しております。

そこで、これは以前他の自治体でもなされたことがあるのかどうか。そちらもお聞きします。お願いします。

○東海林委員長 「増川農林振興課長」

○増川農林振興課長併農業委員会事務局長 79ペ

ージの河北町人・農地リニューアル事業費に関してでありますけれども、荒廃している農地を再生していく中で、田んぼから畑ということで問合せでありますけれども、その田んぼの形式にもよりますけれども、周りが水田であれば、周りの農地の関係者の同意なども必要になってきます。

あと、農業委員会の届けが必要になってくるということで、周りの農地の状況を踏まえた上で、その再生する方が対応していくのかなというふうに思っております。

その中で、やっぱり周辺農地にあまりにも影響を与えるようなことでありますと、やっぱりその点で考えていかなければならない点が出てくると思われます。

農業委員会のほうで農地改良届というふうなことで、その手続については必要になってくる場合もあります。

あと、87ページ、新規猟銃免許取得等補助金につきましては、有害鳥獣の関係ということで、ここも大分山形県のほうでも有害鳥獣でかなり深刻な問題になっているということで、河北町のほうはそれほどまだ被害が少な

いということでありすけれども、米沢から始まりまして、原発のことでイノシシが増えたというふうなことで、猿とカモシカなどの被害があるということで、河北町のほうは35市町村のうちで遅いというか、河北町以外3つぐらい行っていなかったということで、ほとんどの市町村ではこれまで取り組んでいるというふうなことであります。

その補助についても、それぞれの各市町村で取組状況が違ってきているわけでありすけれども、ここ最近行っている市町村では、ほぼ10万円の上限ということで行っているような状況だというふうに思っております。

○東海林委員長 「佐藤商工観光課長」

○佐藤商工観光課長 初めに、91ページの河北町アンテナショップ割引券事業でございますけれども、こちらにつきましては、東京のアンテナショップかほくらしのほうで1,000円以上買物をして、その名刺を見せていただくと200円の割引になるというものでございます。

続きまして、観光協会補助金のうちの館長の人件費でございますけれども、計画としましては、非常勤というふうなことで、年間で90万円を予定しているところでございます。

広告費、我が町にぎわいのこれまでの他の自治体というふうなことでございますけれども、寒河江市のほうで慈恩寺を中心とした寒河江ウイークというふうなことで、去年、今年とやっているというふうに聞いております。

○東海林委員長 「8番細矢誓子委員」

○細矢委員 大体分かりました。

先ほどのアンテナショップ割引券交付金のことですけれども、今なかなかコロナ禍で人の移動などがとても困難というか、制限されていますので、この事業をなさるのもあまり効果が、効果というのは出るのは時間かかるとは思いますが、やはり、きちんと会った人に名刺だけお渡ししないで、裏面を見

て、こんな利点がありますよなんていう進め方、広め方なんかとてもいいと思いますので、少し時間かけてこの効果を現していただければいいかなと思っておりますので、こういう小さな気づきの観光というのもとても大事なことかなと思っております。

ぜひ盛んに広めていただいて、この発信大使さんたちの活躍を期待するばかりであります。

それから、我が町にぎわい創出タイアップ事業ですけれども、この事業というのは、観光協会との連携みたいなのは考えていらっしゃるでしょうか。それをお聞きします。

○東海林委員長 「佐藤商工観光課長」

○佐藤商工観光課長 この事業実施するに当たっては、当然観光協会との連携も行いながら、より河北町をPRできるようにというふうなことで考えておりますので、町と観光協会と、また場合によっては商店街の事業主さん等とも連携を組みながら行っていきたいというふうに考えております。

○東海林委員長 「8番細矢誓子委員」

○細矢委員 そうですね。我が町にぎわい創出、やはり河北町ウイークということで、26日から2日までの長い間を河北町中心に全国だかどこだか分かりませんが、県でやる事業ですか、これ。もし県内であったら、県内も津々浦々に河北町のベニバナの情報とか何かを発信していければいいなと思っておりますので、ぜひこの中に民間の商店街の旬な話題みたいなものを盛り込んでいただければ本当に町中がこのベニバナでいろいろな行事をやっているんだなという、すごくいい宣伝になると思いますので、ぜひぜひ成功に結びつけるような事業であってほしいなと思っております。終わります。

○東海林委員長 以上で8番細矢誓子委員の質疑を終わります。

ここで委員長からお諮りします。

本日はこれをもって延会としたいと思います。
これに異議ありませんか。

(「異議なし」の声あり)

異議なしと認めます。よって、本日はこれ
にて延会とします。

明日3月12日は午前9時までご参集願いま
す。

お疲れさまでした。

午後3時14分 延 会

